

平成30年度

中学校ブロックジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

【小中一貫教育校(施設分離型)】

- 宇治中学校ブロック (菟道小・菟道第二小)
- 北宇治中学校ブロック (小倉小・北小倉小)
- 槇島中学校ブロック (槇島小・北槇島小)
- 西小倉中学校ブロック (西小倉小・南小倉小)
- 西宇治中学校ブロック (神明小・伊勢田小)
- 南宇治中学校ブロック (西大久保小・平盛小)
- 広野中学校ブロック (大久保小・大開小)
- 東宇治中学校ブロック (三室戸小・南部小・岡屋小)
- 木幡中学校ブロック (木幡小・御蔵山小・笠取小・笠取第二小)

【小中一貫校(施設一体型)】

- 黄檗中学校ブロック (宇治小)

宇治市教育委員会

目次

○宇治中学校ブロック（菟道小・菟道第二小）	… 1
○北宇治中学校ブロック（小倉小・北小倉小）	… 5
○槇島中学校ブロック（槇島小・北槇島小）	… 9
○西小倉中学校ブロック（西小倉小・南小倉小）	… 13
○西宇治中学校ブロック（神明小・伊勢田小）	… 17
○南宇治中学校ブロック（西大久保・平盛小）	… 21
○広野中学校ブロック（大久保小・大開小）	… 25
○東宇治中学校ブロック（三室戸小・南部小・岡屋小）	… 29
○木幡中学校ブロック（木幡小・御蔵山小・笠取小・笠取第二小）	… 33
○黄檗中学校ブロック（宇治小）	… 38

宇治市立 宇 治 中学校 校長 南 享
 宇治市立 菟 道 小学校 校長 小田 康博
 宇治市立 菟道第二 小学校 校長 田中多賀子

小中一貫教育コーディネーター〔氏名の前にラーニングには(ラ)、チーフには(チ)を付ける〕

(宇 治) 中学校 氏名 岩井 佳慧
 (菟 道) 小学校 氏名 飯田 晴孝
 (菟道第二) 小学校 氏名 (チ)山田 健

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

(1) 教育目標

ふるさと宇治を愛し、未来を展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

(2) めざす児童生徒像

ア ともに学び、考える児童生徒 イ たくましく生きる児童生徒 ウ 笑顔を大切にする児童生徒

2 昨年度の成果と課題

- (1) 3つの専門部会(宇治学、授業づくり、人権・道徳)で公開授業が実施でき、事前研究会・事後研究会を実施できた。
- (2) 小学生に対する中学校半日体験を、部活動体験、授業体験、生徒会本部役員からの学校紹介など、さまざまな形で実施できた。
- (3) 6年生が中学校生活について中学生に質問する、二小一中ミーティング(児童会と生徒会の合同研修会)を実施し、中学校進学に対する不安解消を図ることができた。
- (4) 中学校入学時の定期テストに対する6年生児童の不安を少しでも軽減するため、宇治中学校教諭より6年生児童に向けてテスト勉強の仕方等の話をする機会を設けることができた。
- (5) 京都府学力診断テストの結果を分析し、2小共通の春休みの課題(算数)を作成することができた。
- (6) 小中一貫夏季研修会では、城陽市立東城陽中学校教諭より、「道徳の教科化に向けて」について講演していただき、効果的な授業の進め方や評価の仕方等について共通理解を図ることができた。
- (7) 現在、第3回専門部会については日程を限定せず、個々に開催しているが、実施内容についてはより意義深いものとなるよう、精査していく必要がある。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

- (1) 小中合同の授業研究(事前研・公開授業・事後研)を、人権・道徳、授業づくり、宇治学の3つの専門部で実施する。
- (2) 小学生が中学校の部活動を体験できる取組(ふるさと宇治21におけるクラブフェスティバル)をさらに推進する。
- (3) 宇治中学校ブロックの全教職員が、各専門部の取組の進捗状況を共通理解するため、合同研修会終了の度に「合同研修会のまとめ」を発行し、職員会議等で各部からの報告を行う。
- (4) 保護者・地域へのより一層の啓発を図るため、小中一貫教育の取組をホームページや学校だよりで紹介する。
- (5) 「中学校入学時の定期テストに対する児童の不安」の軽減に向けた取組を推進する。

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 年度後半に、授業づくり、宇治学、人権・道徳の3つの専門部会において、公開授業研究会(事前研⇒公開授業⇒事後研)を実施する。
 また、授業づくり部会においては、小学校から中学校への円滑な接続を意図し、児童生徒の学力の課題について共通理解を図り、「児童生徒の学力向上」に向けた取組を小・中学校協働で進める。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 これまで行っている交流授業(クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習)の内容を精査し、より効果的な方法を検討し、実施していく。
- (3) 家庭・地域社会との連携
 小中一貫教育校だより(FUTT)や学校だより、ホームページ等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介する。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、6年生児童に対して、中学校の「定期テスト」に対し

てどのように学習すればよいかを話をする機会を設ける。

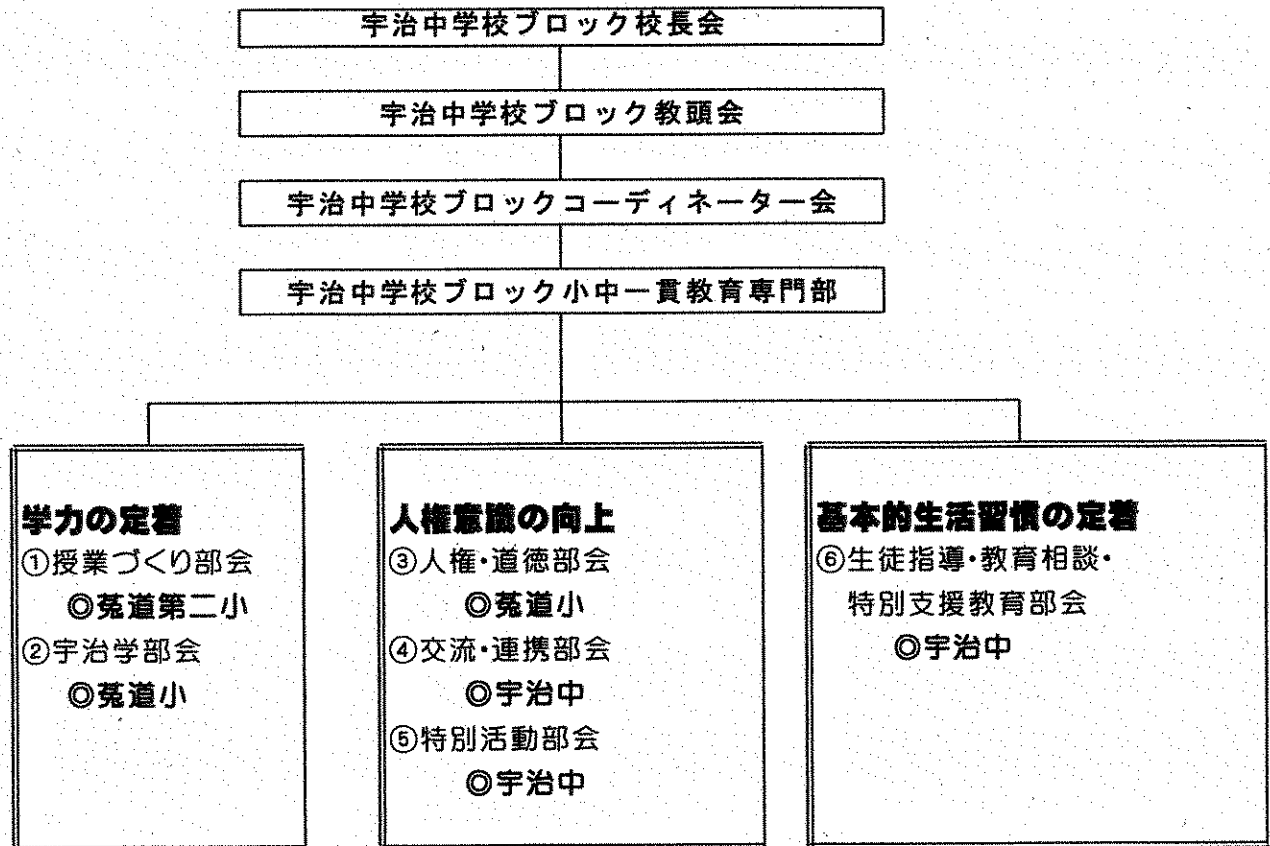
中学校の学校だよりを6年生全員に配布し、中学校の様子をよく知ってもらうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示する。

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

ブロック校長会の指導のもと、教頭とコーディネーターを要とした推進体制の充実を図る。各校の教頭、コーディネーターで取組の方向性について検討し、ブロック校長会の指示のもと、具体的な取組を各専門部で推進していく。

※ 添付 「平成30年度小中一貫教育を推進する組織図」

宇治中学校ブロック小中一貫教育組織



ブロック小中一貫教育目標

**ふるさと宇治を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成
めざすことも像**

- ア とともに学び、考える児童生徒
- イ たくましく生きる児童生徒
- ウ 笑顔を大切にする児童生徒

昨年度の成果と課題

- (1) 3つの専門部会（宇治学、授業づくり、人権・道徳）で公開授業が実施でき、事前研究会・事後研究会を実施できた。
- (2) 小学生に対する中学校半日体験を、部活動体験、授業体験、生徒会本部役員からの学校紹介など、さまざまな形で実施できた。
- (3) 6年生が中学校生活について中学生に質問する、二小一中ミーティング（児童会と生徒会の合同研修会）を実施し、中学校進学に対する不安解消を図ることができた。
- (4) 中学校入学時の定期テストに対する6年生児童の不安を少しでも軽減するため、宇治中学校教諭より6年生児童に向けてテスト勉強の仕方等の話をする機会を設けることができた。
- (5) 京都府学力診断テストの結果を分析し、2小共通の春休みの課題（算数）を作成することができた。
- (6) 小中一貫夏季研修会では、城陽市立東城陽中学校教諭より、「道徳の教科化に向けて」について講演していただき、効果的な授業の進め方や評価の仕方等について共通理解を図ることができた。
- (7) 現在、第3回専門部会については日程を限定せず、個々に開催しているが、実施内容についてはより意義深いものとなるよう、精査していく必要がある。

今年度の重点

- (1) 小中合同の授業研究（事前研・公開授業・事後研）を、人権・道徳、授業づくり、宇治学の3つの専門部で実施する。
- (2) 小学生が中学校の部活動を体験できる取組（ふるさと宇治21におけるクラブフェスティバル）をさらに推進する。
- (3) 宇治中学校ブロックの全教職員が、各専門部の取組の進捗状況を共通理解するため、合同研修会終了の度に「合同研修会のまとめ」を発行し、職員会議等で各部からの報告を行う。
- (4) 保護者・地域へのより一層の啓発を図るため、小中一貫教育の取組をホームページや学校だよりで紹介する。
- (5) 「中学校入学時の定期テストに対する児童の不安」の軽減に向けた取組を推進する。

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
年度後半に、授業づくり、宇治学、人権・道徳の3つの専門部会において、公開授業研究会（事前研⇒公開授業⇒事後研）を実施する。
また、授業づくり部会においては、小学校から中学校への円滑な接続を意図し、児童生徒の学力の課題について共通理解を図り、「児童生徒の学力向上」に向けた取組を小・中学校協働で進める。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
これまで行っている交流授業（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）の内容を精査し、より効果的な方法を検討し、実施していく。
- (3) 家庭・地域社会との連携
小中一貫教育校だより（FUTT）や学校だより、ホームページ等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介する。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、6年生児童に対して、中学校の「定期テスト」に対してどのように学習すればよいかを話をする機会を設ける。
中学校の学校だよりを6年生全員に配布し、中学校の様子をよく知ってもらうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示する。
- (4) 中学校ブロック推進体制の充実
ブロック校長会の指導のもと、教頭とコーディネーターを要とした推進体制の充実を図る。
各校の教頭、コーディネーターで取組の方向性について検討し、ブロック校長会の指示のもと、具体的な取組を各専門部で推進していく。

※「今年度の取組」については、学力の充実・向上の取組がわかるように記入すること。

平成30年度北宇治中学校ブロック ジョイントプラン

－ 小中一貫教育推進計画 －

宇治市立北宇治中学校 校長 松元 伸祥

宇治市立北小倉小学校 校長 藤井 宣夫

宇治市立小倉小学校 校長 海老瀬 正純

小中一貫教育コーディネーター

(北 宇 治)中学校 職名 教諭 ◎氏名 有山 明利

(北 小 倉)小学校 職名 教諭 氏名 佐竹 正孝

(小 倉)小学校 職名 教諭 氏名 坂 一真

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」

(めざす子ども像)

- ・ 自ら考え、自発的に表現できる子 (知)
- ・ 人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子 (徳)
- ・ 運動に親しむことにより、楽しく生活できる子 (体)

2 昨年度の成果と課題

(成果)

- ・ 学力を中心とした組織体制のもと、小中一貫教育の推進が図れた。

(課題)

- ・ 小中の連携を一層深め、学力を中心とした取組をさらに補充・深化する必要がある。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

(1) 小中学校の教員が連携して学力の向上を図る。

学力向上のための方策を研究する(小中一貫の視点から、日々の授業技術の向上や学力定着のための具体的方策を探り実践していく)

☆小中9年間を見通した学びを意識し、小中合同で組織化して取り組む

①学力部(日常的活動)…全員が所属

【学力分析係】

- ・ 的確な学力分析により児童、生徒の実態を明らかにするとともに、具体的な取組の手立てを提案する。

【授業改善係】

- ・ 学力向上のための具体的な授業改善策の提案を行う。

【道徳係】

- ・ 評価のあり方を含め、道徳科の円滑な推進をはかる。

【外国語教育推進係】

- ・ 小中連携の元、外国語(英語)教育の円滑な連携や推進をはかる。

【家庭学習係】

- ・ 家庭学習の確実な定着における方策を練り実施する。「家庭学習の手引き」の有効活用を図る。

【特支・教相係】

- ・ 対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ法を模索するとともに、児童、生徒の実態交流をより細かく行っていく。

②授業部(シーズンの活動)…全員が所属し全教科で授業を実施するとともに、9年間の指導を見通し小中合同で指導案を作成する。

(2) 各係会を中心に、小中一貫教育を推進する組織力を向上させる。

(3) 保護者や地域住民などに、積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信していく。

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

9年間を見通した学習指導のあり方を研究する。

①学力部係会（日常的活動）…全員が所属

【学力分析係】

- ・個人や学力層の経年変化にも踏み込み、学力実態における課題等を明らかにする。
- ・各校の研究推進部や他の係会との連携や指示をしながら、学力充実の具体的な取組を提案する。

【授業改善係】

- ・各校の研究推進部や学力分析係と連携して学力向上のための具体的な授業改善策や、児童・生徒の効果的な学習方法を提案する。
- ・合同研究授業は原則、全教科で行う。
- ・合同授業研における3校共通の研究テーマを検討・提案する。

【道徳係】

- ・道徳の教科化にともない、円滑な推進や評価のあり方などで連携を図る。

【外国語（英語）教育推進係】

- ・小学校における外国語（英語）教育の設置に伴い、有効な学習方法を提案する。
- ・小中における外国語（英語）教育の円滑な連携を図る。

【家庭学習係】

- ・昨年度完成させた「家庭学習の手引き」の有効利用を図る。
- ・小中それぞれに家庭学習の確実な定着のための方策を練り、実施する。

【特支・教相係】

- ・対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を示していく。
- ・小中それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、連携を図っていく。

②授業部（シーズンの活動）… 全員が所属し原則全教科で研究授業を実施するとともに、9年間の指導を見通し小中合同で指導案を作製する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

小中合同授業研究

- ・合同授業研究に向け小・中学校教員が協働し、指導案を作成する。
- ・小中一貫教育の視点を持って指導方法や教材研究等の交流を行う。（合同授業研究会は北小倉小学校で実施）

学力の実態把握と分析

- ・京都府学力診断テスト、全国学力・学習状況調査等の結果を活用し、学力実態の分析を学力向上に生かす。
- ・各校の「いしずえ学習」の取組を交流し児童生徒の基礎基本の確実な習得・定着を図る。

カリキュラム作成における連携

- ・9年間を見通した年間指導計画を活用し、系統的継続的な学習指導の充実を図る。（カリキュラムの交流及び検討）

児童・生徒の交流

- ・学校行事や対外行事、地域ボランティア活動、児童会・生徒会活動や交流を通して、小中連携、小中連携をすすめる。
- ・小学6年生を対象にした半日入学の取組を実施する。

(3) 家庭・地域社会との連携

小中一貫教育ニュースの発行

- ・保護者向け小中一貫教育ニュースを学期に1回程度発行し、活動内容を保護者・地域に紹介していく。

- ・他の広報紙発行等を行い、ブロック内の小中一貫教育の取組の情報発信を適切に行う。

家庭学習の取組

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、保護者の協力を得つつ、家庭学習の時間を定着させることで学力の向上を図る。

(4) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

機能的な組織運営

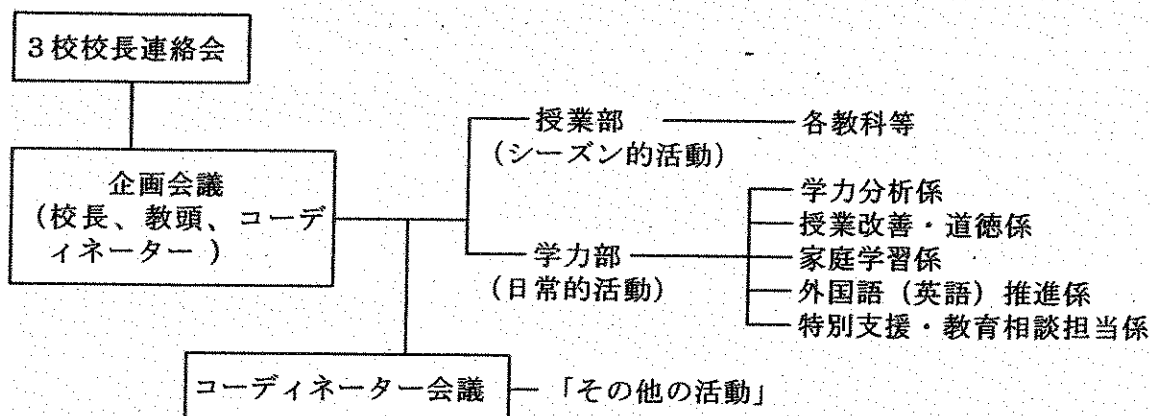
- ・コーディネーター会議を必要に応じて開き、調整する。
- ・企画会議を中心に原案を練り、それに基づいて各係が教職員の具体的な動きをつくり、小中一貫教育を推進する。
- ・各係会における「顧問」の設置（各小中学校校長・教頭が担当）教頭の役割の明示・参加

☆学力分析係…岸教頭（北宇治中） ☆授業改善係…永井教頭（北小倉小）
 ☆家庭学習係…海老瀬校長（小倉小） ☆外国語（英語）係…大川教頭（小倉小）
 ☆特支教相係…藤井校長（北小倉小） ☆道徳係…松元校長（北宇治中）

- ・各係会は各自がいずれかの係会に所属する。（各校の管理職が顧問として各係会に所属）
- ・授業部会は各自がいずれかの教科に所属する。研究授業は原則全教科で実施する。
- ・各部、係会で各校1名の代表者を決め、代表者が各顧問の助言を受けながら中心となって部会運営を行う。

平成30年度小中一貫教育を推進する組織図

H30年度 組織体制…組織図、構成



学力部 全員所属、学力の向上を目指すために各係で各学校代表者を置く。
 児童・生徒会等の取組は、「その他の活動」の中で継続する。
 チーフコーディネーターは、部内等の活動がスムーズに行われているかチェックし、サポートする。

授業部 全員所属、授業実施にあわせて全教科で授業することを基盤とする組織で、小中合同で指導案づくりを行う。研究授業は原則、全教科で行う。

ブロック小中一貫教育目標

「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」

めざす子ども像

・自ら考え、自覚的に表現できる子(知) ・人と地域のつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子(徳) ・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子(体)

昨年度の成果と課題

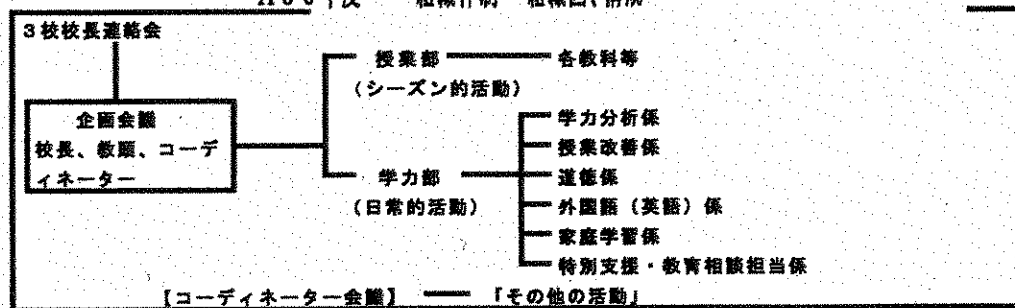
- ・新しい組織体制のもと、学力面を中心に小中一貫教育の推進が図れた。
- ・学力充実を中心に、小学校と中学校の連携を一層深めていく。

今年度に向けて

- ・系統的継続的取組を通して、学力充実を中心に小中一貫教育の推進を図る。

今年度の取組**【推進組織】**

H30年度 組織体制…組織図、構成

**【取組の概要】****教職員研修**

- 小中一貫教育総会
 - ・第1回(6月)・第2回(8月)・第3回(2月)
- 小中一貫合同授業研究会(北小倉小学校)
- 授業参観の取組
 - ・北宇治中(6月)
 - ・北小倉小(10月)
 - ・小倉小(2月)

保護者・地域連携

- 小中一貫教育ニュースの発行
 - ・保護者向けに「小中一貫教育ニュース」を学期に1回程度発行
- 保護者・地域に向けての啓発計画
 - ・家庭学習についての保護者、地域学習会

児童・生徒交流

- 小学生半日体験入学(11月)
- 小中合同クリーンキャンペーン(12月)
- 小中合同共同募金の取組(12月)
- 書き損じはがきハガキの取組(2月)

小中一貫教育コーディネーター (横島)中学校 職名 教諭 (横島)小学校 職名 教諭 (北横島)小学校 職名 教諭	氏名 手嶋 晃一 氏名 青野 裕平
--	----------------------

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中一貫教育目標
めざす子ども像

「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」
心身共に健康で、明るく活動する子
意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

2 昨年度の成果と課題

- ◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。また、ブロック校長会、ブロック教頭会の推進を図ることができた。
- ◇教職員研修では、中学校ブロックの学力分析を行い、基礎学力のさらなる定着のための取組、家庭学習の推進など、学力充実に向けた児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。
- ◇横島小学校の家庭科研究について紹介し、家庭科部会を中心として具体的な実践交流を図り、研究成果に基づいた小小連携・小中連携を推進することができた。
- ◆家庭学習のあり方を再検討し、実態に合わせながら学力充実のため改善していく必要がある。
- ◆授業改善の視点を整理し、日々の実践につながるよう、連携をさらに深めていく必要がある。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

☆横島中学校ブロック研究テーマ

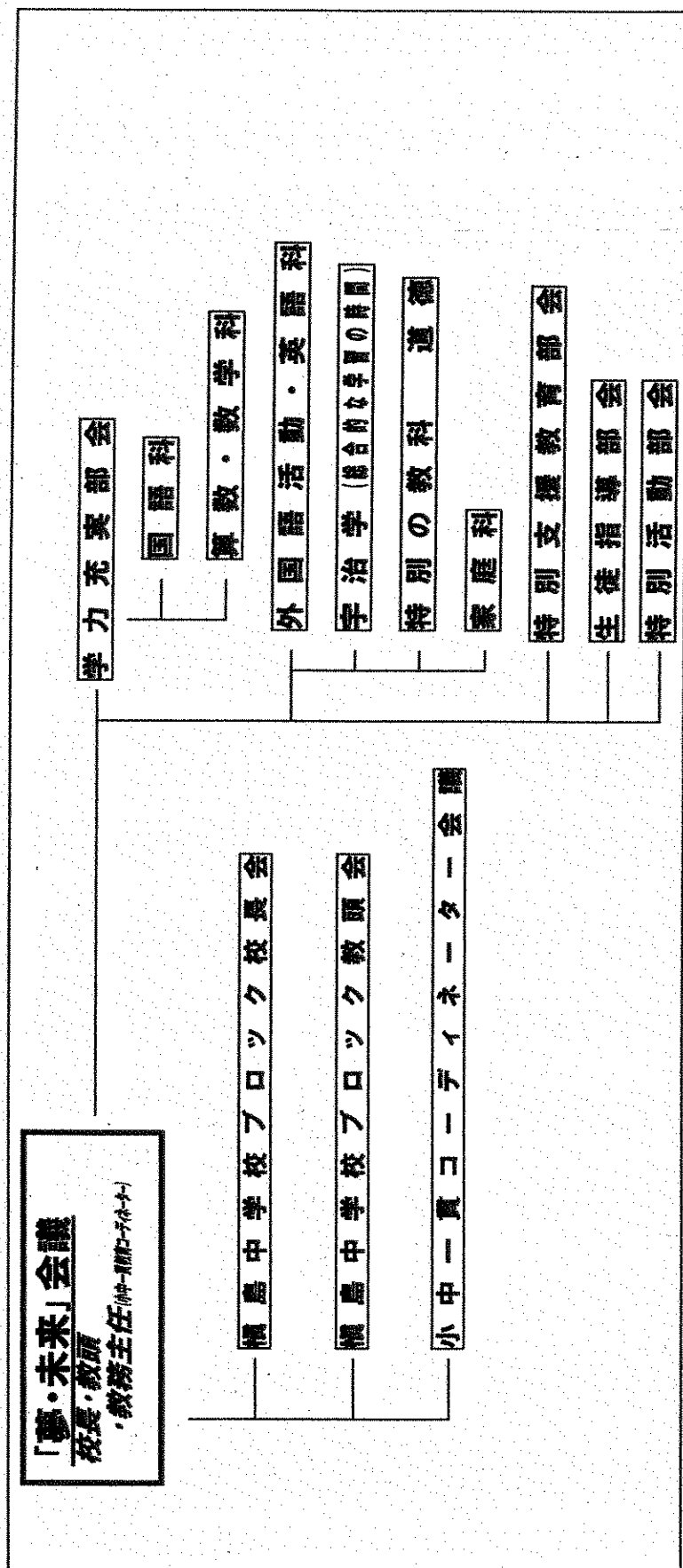
「主体的・対話的で深い学びの充実」をテーマとした授業作り

中学校ブロックの授業作りのテーマを「主体的・対話的で深い学びの充実」と設定し、横島小学校が取り組んでいる家庭科研究について小小連携・小中連携を深め研究成果を広げ実践に生かしながら、児童生徒の授業意欲を向上させるための授業改善および家庭学習の充実に向けた研究を進めていく。また、道徳教育を要とした「心の教育」の充実に向けた研究を進めていく。

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画〔宇治スタンダード〕を活用し、学力充実部を中心として児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。
 - ・小中の接続をスムーズに行えるよう、教科連携教員(外国語)をキーパーソンとした連携や、教科・領域部会を中心とした綿密な連携や研究・研修を推進する。
 - ・横島小学校の「家庭科」の研究、北横島小学校の「特別の教科 道徳」の研究について教科領域部会を通じて研究成果を広め、小小連携・小中連携を深める。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ア 小学生の中学校体験入学
中学進学への不安を解消し、中学校生活への見通しを持つために、中学校での授業体験と部活動体験を行う。
 - イ 中学生の職場体験
横島中学校の2年生が、横島小学校と北横島小学校で、朝の児童の登校を迎えるあいさつや、学級での授業支援、休み時間や給食時間での児童との交流、環境整備など、様々な活動を体験する。
 - ウ 小・中学生の主張交流会
横島中学校の「中学生の主張」学年代表と、北横島小学校6年生の「将来の夢」学級代表が発表し、交流する。横島小学校の6年生は、その様子を映像で鑑賞する。
 - エ 絵画巡回展
中学校ブロックの児童生徒の代表絵画作品を3校および地域にも巡回展示する。
- (3) 家庭・地域社会との連携
 - ・小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の広報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。
 - ・学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。
 - ・昨年度に引き続き、横島中学校ブロックPTA・育友会役員合同研修会を実施し、地域や保護者との連携の意識を高めていく。
- (4) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
 - ・「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、小中一貫教育の取組や各部の研究実践を推進する。そのため、横島中学校ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議を定期的に行い、連携をより強化する。
 - ・教職員広報を発行し、小中一貫教育推進に関わる情報を発信し、小中学校の教職員の共通理解を図りながら、取組を推進する。

平成30年度 横島中ブロック小中合同研・組織



ブロック小中一貫教育目標

「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

めざす子ども像

- 心身共に健康で、明るく活動する子
- 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
- 地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

昨年度の成果と課題

- ◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。また、ブロック校長会、ブロック教頭会の推進を図ることができた。
- ◇教職員研修では、中学校ブロックの学力分析を行い、基礎学力のさらなる定着のための取組、家庭学習の推進など、学力充実に向けた児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。
- ◇横島小学校の家庭科研究について紹介し、家庭科部会を中心として具体的な実践交流を図り、研究成果に基づいた小小連携・小中連携を推進することができた。
- ◆授業改善の視点を整理し、日々の実践につながるよう、連携をさらに深めていく必要がある。
- ◆家庭学習のあり方を再検討し、実態に合わせながら学力充実のため改善していく必要がある。

今年度の重点

☆横島中学校ブロック研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びの充実」をテーマとした授業作り

中学校ブロックの授業作りのテーマを「主体的・対話的で深い学びの充実」と設定し、横島小学校が取り組んでいる家庭科研究について小小連携・小中連携を深め研究成果を広げ実践に生かしながら、児童生徒の授業意欲を向上させるための授業改善および家庭学習の充実に向けた研究を進めていく。また、道徳教育を要とした「心の教育」の充実に向けた研究を進めていく。

今年度の取組

教職員研修

○合同研修会

- ・中学校授業参観と全体会、教科・領域部会（6／14）
- ・学力実態・分析交流、講演会、教科・領域部会、学年会（8／20）
- ・府小研家庭科研究大会（横島小）へ参加（11／20）
- ・教科・領域部会（11／26）

○小学校授業参観

（横島小：5／24、北横島小6／21）

○学力充実部会の開催（5月、7月、10月）

○教職員広報誌の発行

学力充実を目指して

- 学力実態・分析の実施と交流
- 分析に基づく授業改善にむけた検討
- 中学1年ふりスタへの小学校教員による支援
- 「家庭学習ナビゲーション」の配付と改善

児童・生徒交流

- 陸上運動交歓記録会（10／5）
- 中学生の職場体験（10／24～26）
- 絵画巡回展（11月頃）
- 小学生の中学校体験入学（11／7）
- 児童会・生徒会挨拶運動（12／11～12）
- 小・中学生主張交流会（3／1）

家庭・地域との連携

- 小中一貫教育便り「マキシマム」の発行・HPへの掲載
- 横島中学校ブロック PTA・育友会役員合同研修会（10月下旬）
- 北横島小学校区青少年健全育成協議会「夏祭り」（8／4）
- 横島小学校区左義長（1／12）
- 北横島小学校区餅つき&クリーン運動（1／19）

小中一貫教育推進に関わって

- 「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、小中一貫教育の取組や各部の研究実践を推進する。
- 横島中学校ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議を定期的実施する。
- 学力充実部会を合同部会とは別日に設定し、学力分析と課題解決に向けての方策の検討、家庭学習の手引きの検討を行い、国語や算数・数学部会にて具現化する体制を確立する。

平成30年度 西小倉中学校ブロック ジョイントプラン — 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立西小倉中学校 校長 久保田正宏
宇治市立西小倉小学校 校長 堀井 眞
宇治市立南小倉小学校 校長 藤田 明男

小中一貫教育ラーニングコーディネーター
西小倉中学校 氏名 村雲 賢也
小中一貫教育コーディネーター
西小倉小学校 氏名 奥山 紀子
南小倉小学校 氏名 丸尾 章弘

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の 豊かな心と 確かな学力を育む

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

2 昨年度の成果と課題

【成果】

- ・夏季合同研修会のグループ別協議に於ける「思考ツール」の活用や、合同授業研究会の公開授業に 於ける「やましる授業スタンダードを活用した授業シート」を用いることで、多様な考えや意見を交流することができ、その後の取組にも繋げることができた。
- ・家庭学習アンケートを三校で実施することで、各校の家庭学習の実態を確認することができ、効果的な家庭学習に対する考えを共有することができた。
- ・『ほめる』ことが児童生徒の学習意欲向上や日常生活向上のために効果的である」という仮説のもと、ブロック共通の「スタンプ」を作成し、積極的に活用した。年度末は、佛教大学の原清治教授 を招いて教育懇談会を実施し、本ブロックが推進している小中一貫教育の様々な取組について助言 をもらい、ブロックの教員を交えて教育トークを行った。
- ・コーディネーター会議を充実させることにより、その後の推進委員会を効果的に行うことができた。

【課題】

- ・推進委員会として各部、取組の進行管理を行い、成果と課題を次年度へ確実に繋いでいく。
- ・各部会の代表者と各校コーディネーターが連携しながら取組を進め、各部会が中心となって活動できるようにしていく。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- ①合同授業研究会の開催と教員の授業力向上の取組
- ②家庭学習の定着と充実に向けた連携した取組
- ③児童生徒交流の取組の具体化と改善
- ④保護者・地域との連携

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・宇治スタンダードの充実や、「やましる授業スタンダード」の活用を図る。特に小学校高学年においては、中学校への接続を意識し、中学校においては小学校との接続を意識した授業改善を進める。今年度は「基礎・基本を大切にしながら対話的な学びに繋げていくためには」について重点を置き、夏季合同研修会や合同授業研究会において研究を深めていく。
- ・教科連携加配(体育)による小学校6年生（南小倉小学校は5年も実施）の指導、小学校高学年における教科担任制授業を推進する。
- ・「いしずえ学習」を活用し、基礎基本の徹底や「自主学習」「振り返り学習」を行う。
- ・教職員同士、教職員と児童・生徒、児童・生徒同士の「つながり」を深めることを大切にしなが、児童生徒が主体的に学習を行うことで、学力向上へと繋がる取組を進めていく。

- ・ 中学校のテストへの不安軽減を図るため、両小学校6年生が、中学校のテストの形式に合わせたテストを実施する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・ 年間2回の研修会、合同授業研究会（1回）、フリー参観（1回）を行い、授業改善・授業システムの共有化を図り、自主学習の取組等による家庭学習の充実に取り組む。
- ・ 自主学習ノートの活用により、児童の学習意欲を高め、学力の向上につなげる。
- ・ 西小倉中ブロック宇治学の指導計画に基づく活動を推進し、見直し、改善する。特に3年、6年の小小連携による宇治学の充実に努める。
- ・ 小小連携加配による、両小学校での音楽の授業を通して課題を発見し、改善する。
- ・ 「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部で、児童生徒の実態を交流し、課題の解決に向けた取組を進める。各部会で小中一貫の視点で取り組む内容を具体化していく。

① 学力充実・向上部

- 合同授業研究会において、授業改善の視点に立ち、「表現力の向上を目指して～自分の思いや考えを正確に表現する児童・生徒の育成～」をどのように授業に取り入れていくかに焦点を当てた授業研究会に向けて調整を図る。
- 各学校で行った各種診断テストの結果分析をもとに、小小間、小中間の課題を共通確認する。
- 家庭学習の充実に向けた取組（共通スタンプの活用等）の点検を行い、実践する。

② 生徒指導部

- 小中が連携して、頭髪等の指導を保護者に理解していただく（健康面も含めて）。
- 不登校、生徒指導上課題のある子どものカルテ作りを連携して行っていく。
- 12月の小6半日体験の時に、保護者に中学校の生活について、詳しく話をする。また、3学期には6年生対象に中学校の生活の話をする機会を作る。

③ 児童生徒交流部

- ・ 下記の具体的な取組を確実にし、共通した取組の具体化と改善を進める。
- 児童会、生徒会本部役員の交流をはじめ、協働できる取組を企画、実施する。（体験入学・部活体験・職場体験や地域行事での交流、小中合同の取組、あいさつ運動、小小連携としての児童交流等）
- 各小学校の「子どもの居場所づくり事業」への中学校生徒の参加を呼びかける。

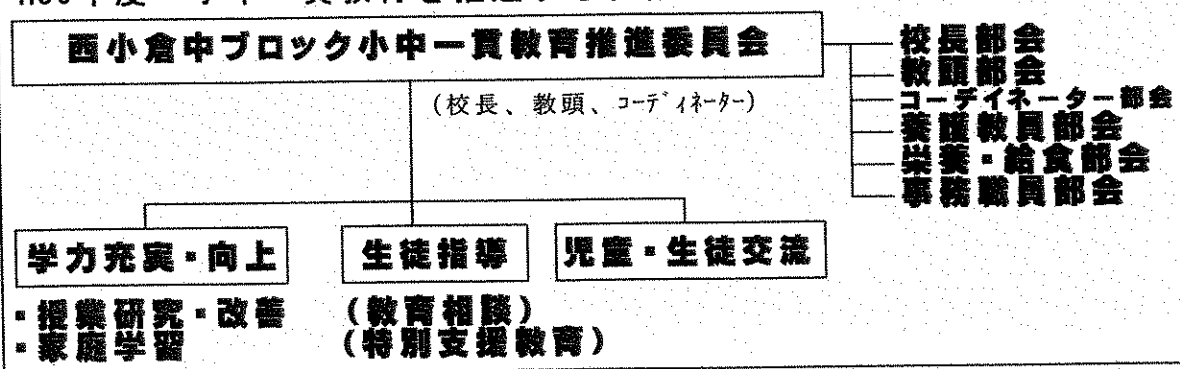
(3) 家庭・地域社会との連携

- ・ 家庭学習の充実に繋がる意識アンケートを必要に応じて実施する。
- ・ 様々な取組を「一貫教育だより」や「学校だより」、HP等で発信する。
- ・ 各校の「一貫教育コーナー」（掲示板）を充実させる。
- ・ 3校合同地域懇談会を実施する。
- ・ 「小中一貫教育推進ニュース」を発行し、小・中学校の保護者に配布する。

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

- ・ 月1回程度のコーディネーター会議で合同研究会の計画や各部の活動状況を把握する。
- ・ 月1回の推進会議を持ち、コーディネーター会議の内容を確認し、協議する。
- ・ 教頭会を推進組織に位置づけ、教頭とコーディネーターがリーダーとなる推進体制を構築する。
- ・ 各校校長、教頭がそれぞれ「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の担当に取り、部の責任者（コーディネーター）と相談しながら取組を進めていく。

H30年度 小中一貫教育を推進する組織図



つながりを深めよう

組織・授業・地域

小中一貫教育目標

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の ゆたかな心と 確かな学力をはぐくむ
めざす子ども像

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気を付け 自らの目標に向かってがんばる子

【今年度の取組】

推進組織

- 「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部会による各担当コーディネーターを中心とした課題の解決に向けた取組

教職員研修

- 合同研修会
 - ・夏季合同研修会（8月22日）とグループ別協議
 - ・合同授業研究会後の事後研
- 公開授業（小2～小6）及び合同研修会
 - ・西小倉小学校（11月22日）
- フリー参観
 - ・西小倉中（5月24日）
- 教育懇談会（2月22日予定）
 - 〈助言：佛教大学 原 清治教授〉

家庭・地域連携

- 家庭学習の充実に繋がるアンケートを小中で実施
- 「一貫教育だより」や「学校だより」、またHPによる取組の発信
- 各校の「一貫教育コーナー」（掲示板）を充実
- 3校合同地域懇談会の実施（6月29日）
- 「小中一貫教育推進ニュース」の発行（4回）
 - 〈家庭学習アンケートの結果を報告〉

学力充実

- 家庭学習の手引きの配布
- 自主学習ノートの活用による家庭学習の充実
- 学力実態・分析
- 家庭学習アンケートの実施（6月）
- 西小倉中ブロック「家庭学習啓発用オリジナルスタンプ」活用
- 春休み学習課題（6年）の作成・配布

児童生徒交流

- 職場体験（6月13日・14日）
- あいさつ運動（中学生職場体験と合わせて）
- 地域の行事に中学生が参加

小中のスムーズな接続のために

- 教科連携加配（体育）の中学校教員による小学校5、6年生の指導
- 西小倉中学校体験入学（11月30日）
 - ・6年生の中学校生活体験（授業・部活動体験）
- 小中連絡会（5月29日・3月）
- 中学校定期テストに向けた不安軽減の取組

【昨年度の成果と課題・今年度の方向性】

〈成果〉

- ・夏季合同研修会のグループ別協議に於ける「思考ツール」の活用や、合同授業研究会の公開授業に於ける「やましろ授業スタンダードを活用した授業シート」を用いることで、多様な考えや意見を交流することができ、その後の取組にも繋げることができた。
- ・家庭学習アンケートを三校で実施することで、各校の家庭学習の実態を確認することができ、効果的な家庭学習に対する考えを共有することができた。
- ・「『ほめる』ことが児童生徒の学習意欲向上や日常生活向上のために効果的である」という仮説のもと、ブロック共通の「スタンプ」を作成し、積極的に活用した。年度末は、佛教大学の原清治教授を招いて教育懇談会を実施し、本ブロックが推進している小中一貫教育の様々な取組について助言をもらい、ブロックの教員を交えて教育トークを行った。
- ・コーディネーター会議を充実させることにより、その後の推進委員会を効果的に行うことができた。

〈課題〉

- ・推進委員会として各部、取組の進行管理を行い、成果と課題を次年度へ確実に繋いでいく。
- ・各部会の代表者と各校コーディネーターが連携しながら取組を進め、各部会が中心となって活動できるようにしていく。

〈今年度の方向性〉

- ・学力充実・向上に向けての取組について、今年度中に確実な検証を行い、課題点を次年度へ繋げる。
- ・各部会の取組について、継続していく取組、変更する取組等を整理し、次年度へと引き継ぐ。
- ・学力充実・向上に向けて、小学校は義務教育の入り口の1年生からの6年間の発育・発達上の歩みを大切に、中学校は義務教育の出口である進路保障を目標に、9年間でどのような力を付けさせ、どのような人間教育を行っていくのかをブロック教職員で考えを共有し、小中の「繋がり」をより意識した小中一貫教育を推進していく。

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立西宇治中学校 校長 岩崎 正樹

宇治市立伊勢田小学校 校長 飯田 康生

宇治市立神明小学校 校長 松本 英明

小中一貫教育コーディネーター〔氏名の前にラーニングには(ラ)、チーフには(チ)を付ける〕

西宇治中学校 (チ) 氏名 伊藤 恵

伊勢田小学校 氏名 玉井 耕平

神 明小学校 氏名 吉村 祥代

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

N・I・S目標 「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

目指す児童・生徒像

徳

つながる力

- ・ 温かい心で助け合う子
- ・ 節度をもった礼儀ある子
- ・ 違いを認めあえる子

知

展開する力

- ・ 深く考え、よく聴き
- ・ 意欲的に表明する子

体

挑戦する力

- ・ ねばり強く諦めない子
- ・ 基本的生活習慣や健康を配慮できる子

2 昨年度の成果と課題

成果

- ・ 必要な諸会議や交流を定例化して、小中学校間の連携を推進・強化することができた。
- ・ 年3回の「N・I・S合同研修会」で行ったアンケート調査の結果に、柔軟な対応をとることができた。
- ・ 既存の取組一つ一つを丁寧に見直ししながら適宜改善を施し、維持継続と充実に努めた。
- ・ 各取組や研修会の記録、アンケートの集約結果などを、印刷物及び電子データとして整理・保存した。
- ・ 広報紙を、「生徒・保護者用」年3回、「教職員用」年2回、計5回発行し充実させた。

課題

- ・ 各校の学力分析結果に基づいて合同研修した内容を、実際にそれぞれの課題解決に十分活かし、「学力充実部」及び「教科部会」を中心とする全ての部会が、総掛かりで実践していく体制には弱さがあった。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点

重点

主体的・対話的で深い学び、及び進路を見据えた学力向上の取組を基本に置く。

- (1) 合同研修会各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施。
- (2) 領域3部会機能の活性化。
- (3) 小小連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善。）
- (4) 相互連携授業の充実。

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ① 第3回西宇治中学校ブロック小中一貫教育合同研修会（10月）の公開授業（会場：伊勢田小学校）に向け、6・8月の2回にわたって3校合同の研修会を持ち、各教科の指導案作成及び指導方法等について研究や研修を実践する。
- ② 小中学校9年間に及ぶ児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修するとともに、その成果を共有し協働に活かすことができるよう、資料・データの整理（＝「見える化」）に努める。
- ③ 「宇治学」に関しては、副読本の活用について十分検討し、持続的・継続的、さらに現実的な計画を立てる。
- ④ 小中学校共、各学年における最初の授業や適切な機会を捉えた「学習の手引き」活用で、「学習の仕方指導」を実施するとともに、学習指導面における小中連携・協働を進める。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ① 中2「職場体験学習」の場を小学校に設定する取組（5月30・31日 6月1日）や、小学校児童への中学生の「部活動を生かした交流」（駅伝合同練習など）実施等々、相互の理解と交流を深める取組を積極的に実践する。
- ② 小6「中学校体験入学」（11月7日）を実施して、児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援する。
- ③ 毎学期小中学校共同で「朝の挨拶運動」に取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深める。
- ④ 各取組の担当者は、相互に取組の意義や実践に関する詳細について打ち合わせを行うことで取組の形骸化を避け、有効な取組としての維持継続を図る。

(3) 家庭・地域社会との連携

- ① 広報紙発行（小中学校保護者、及び地域へ配布）の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だより（小5・小6・中1対象分）のブロック内交流、各校HP上の工夫等々、広く地域に発信し理解と支援を求める。
- ② 各地域行事（夏祭りや左義長など）、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

- ① ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努める。
（特に、実務に直結するコーディネーター会議は月例開催を目処とし、全体の調整と活性化にあたる。）
- ② 小中連携の諸行事における準備の手順や役割担当等を明確にし、協働体制を構築する。

※ 添付 「平成30年度小中一貫教育を推進する組織図」

平成30年度小中一貫教育を推進する組織図

西宇治中学校ブロック小中一貫教育推進会議

西宇治中ブロック校長会

ブロック教頭会

神明小
コーディネーター

伊勢田小
コーディネーター

西宇治中
チーフコーディネーター

領域3部会

児童生徒
理解部会

学力充実
部会

児童生徒
交流部会

国語 社会 算数 理科 音楽 家庭 図工 体育 宇治学 外国語 道徳 特支 養護
数学 技術 美術 英語 栄養

生徒指導
特別支援
教育相談

西宇治中生徒会
伊勢田小児童会
神明小児童会

西宇治中学校ブロック教頭会

中学校は教科担当を基本に校務分掌を配慮
小学校は校務分掌を配慮しつつ可能な限り均等割

- (1) ブロック校長会とブロック教頭会、コーディネーター会議をもって推進会議を構成する。
- (2) コーディネーターは各校教員を組織し領域3部会を構成する
- (3) 各校教職員は領域3部会に組織される。
- (4) 教科部会は「特別支援」「養護・栄養」を含む13部会で構成する。

ブロック小中一貫教育目標**N・I・S目標**

「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

めざす子ども像

- 知「展開する力」：・深く考え、よく聴き、意欲的に表明する子。
- 徳「つながる力」：・温かい心で助け合う子 ・節度をもった礼儀ある子。
・違いを認め合える子。
- 体「挑戦する力」：・ねばり強く諦めない子。 ・基本的生活習慣や健康を配慮できる子。

昨年度の成果と課題**成果**

- 全体的に計画に沿った活動を展開することができ、一定の実践結果を得ることができた。
- 取組の一つ一つに適宜改善を施しながら、発展継続させることができた。
- 資料・データ等を点検整理し、共有・協働に向けて取り組んだ。

課題

- 学力分析結果に基づく研修・研究内容を、学力充実部及び教科部会を中心とした全ての部会で積極的に活用し、課題解決に向けて取り組めるよう、具体的な手立てが求められる。

今年度の重点**重点**主体的・対話的で深い学び 及び
進路指導を見据えた学力向上の取組を
基本に置く。

- (1) 合同研修会各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施
- (2) 領域3部会機能の活性化
- (3) 小小連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善）
- (4) 相互連携授業の充実

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・ 第3回西宇治中学校ブロック小中一貫教育合同研修会（10月）の公開授業（会場：伊勢田小学校）に向け、6・8月の2回にわたって3校合同の研修会を持ち、各教科の指導案作成及び指導方法等について研究や研修を実践する。
 - ・ 小中学校9年間に及ぶ児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修するとともに、その成果を共有し協働に活かすことができるよう、資料・データの整理（＝「見える化」）に努める。
 - ・ 「宇治学」に関しては、副読本の活用について十分検討し、持続的・継続的、さらに現実的な計画を立てる。
 - ・ 小中学校共、各学年における最初の授業や適切な機会を捉えた「学習の手引き」活用で、「学習の仕方指導」を実施するとともに、学習指導面における小中連携・協働を進める。
- (2) 中学校ブロック推進体制の充実
 - ・ ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努める。
（特に、実務に直結するコーディネーター会議は月例開催を目処とし、全体の調整と活性化にあたる。）
 - ・ 小中連携の諸行事における準備の手順や役割担当等を明確にし、協働体制を構築する。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・ 中2「職場体験学習」の場を小学校に設定する取組（5月30・31日 6月1日）や、小学校児童への中学生の「部活動を生かした交流」（駅伝合同練習など）実施等々、相互の理解と交流を深める取組を積極的に実践する。
 - ・ 小6「中学校体験入学」（11月7日）を実施して、児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援する。
 - ・ 毎学期小中学校共同で「朝の挨拶運動」に取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深める。
 - ・ 各取組の担当者は、相互に取組の意義や実践に関する詳細について打ち合わせを行うことで取組の形骸化を避け、有効な取組としての維持継続を図る。
- (4) 家庭・地域社会との連携
 - ・ 広報紙発行（小中学校保護者、及び地域へ配布）の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だより（小5・小6・中1対象分）のブロック内交流、各校HP上の工夫等々、広く地域に発信し理解と支援を求める。
 - ・ 各地域行事（夏祭りや左義長など）、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立南宇治中学校 校長 秋元恒志

宇治市立西大久保小学校 校長 林 文康

宇治市立平盛小学校 校長 浦田雅彦

小中一貫教育コーディネーター〔氏名の前にラーニングには(ラ)、チーフには(チ)を付ける〕

(南宇治) 中学校 氏名 (ラ) 土井加津美

(西大久保) 小学校 氏名 甲斐聖人

(平盛) 小学校 氏名 吉野美穂子

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

<南宇治中学校区小中一貫教育目標>

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」

<9年間で育てたい力>

(1) 自ら学び、共に学び合い、真理を探究する力

① 授業規律の確立と基礎・基本の徹底

② 言語活動の充実

③ 学習意欲の向上

(2) 豊かな心を持ち、人間関係を築く力

① 集団の中での自己存在感の確立

② 共感的人間関係を基盤とした教育活動の推進

③ 思いやりや心づかいがあふれる実践的態度の育成

(3) 生命を大切にし、たくましく生きる力

① 目標に向かって挑戦する意欲の高揚

② くじけず、着実に歩む強い心の育成

③ 自分や仲間の生命を尊重する態度の育成

(4) 未来に向けた自分の生き方を求める力

① 自分の良さや適性を伸ばし、自尊感情を高める取組の推進

② 自分の目標を定めるための体験や学びの充実

③ 児童・生徒の夢をはぐくむ学校・家庭・地域の連携

2 昨年度の成果と課題

- ・小中合同のあいさつ運動や清掃活動、小小・小中連携の国際理解学習の取組が定例化してきたことによって、小中間だけでなく小小間の連携も深まり、三校の教員の児童生徒理解が進んできた。その結果、学力に対する課題を共有することもできてきている。
- ・小学生への中学校の定期テスト対策や、国際理解教育の基本知識をもって入学してくることが、安定した中学校生活を送ることにつながっている。
- ・学力の向上に向けた具体的な取組をどのように進めていくか、三校で検討していくことが課題である。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

- ・組織・体制を見直し、具体的な学力向上の取組を検討する。
- ・児童生徒の交流が、より実りあるものにするために、主体的な活動にしていく。

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・学力充実部が行う学力分析の結果から、具体的な改善目標を精選し、設定した目標に向けての取組を検討する。
- ・授業を公開し、事前研・事後研を含む授業研究を行い、小中で取り組める授業改善の方向性を探る。
- ・授業規律の共有と家庭学習の取組（家庭学習の手引きの作成など）を進める。
- ・各校の状況を踏まえ、学校生活のきまりや、よりよい姿を小中で共有する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・両小学校で帰国外国人児童生徒理解学習を実施し、中国武術体験などを通して三校共通のグローバルな感覚を養う。
- ・児童会生徒会合同会議を実施し、小中合同地域清掃ボランティア活動や、児童会生徒会合同あいさつ運動を児童生徒の主体的な取組にする。
- ・小学6年生の授業体験・部活動体験や、中学生による小学生の部活指導支援を通して児童生徒の交流を図る。

(3) 家庭・地域社会との連携

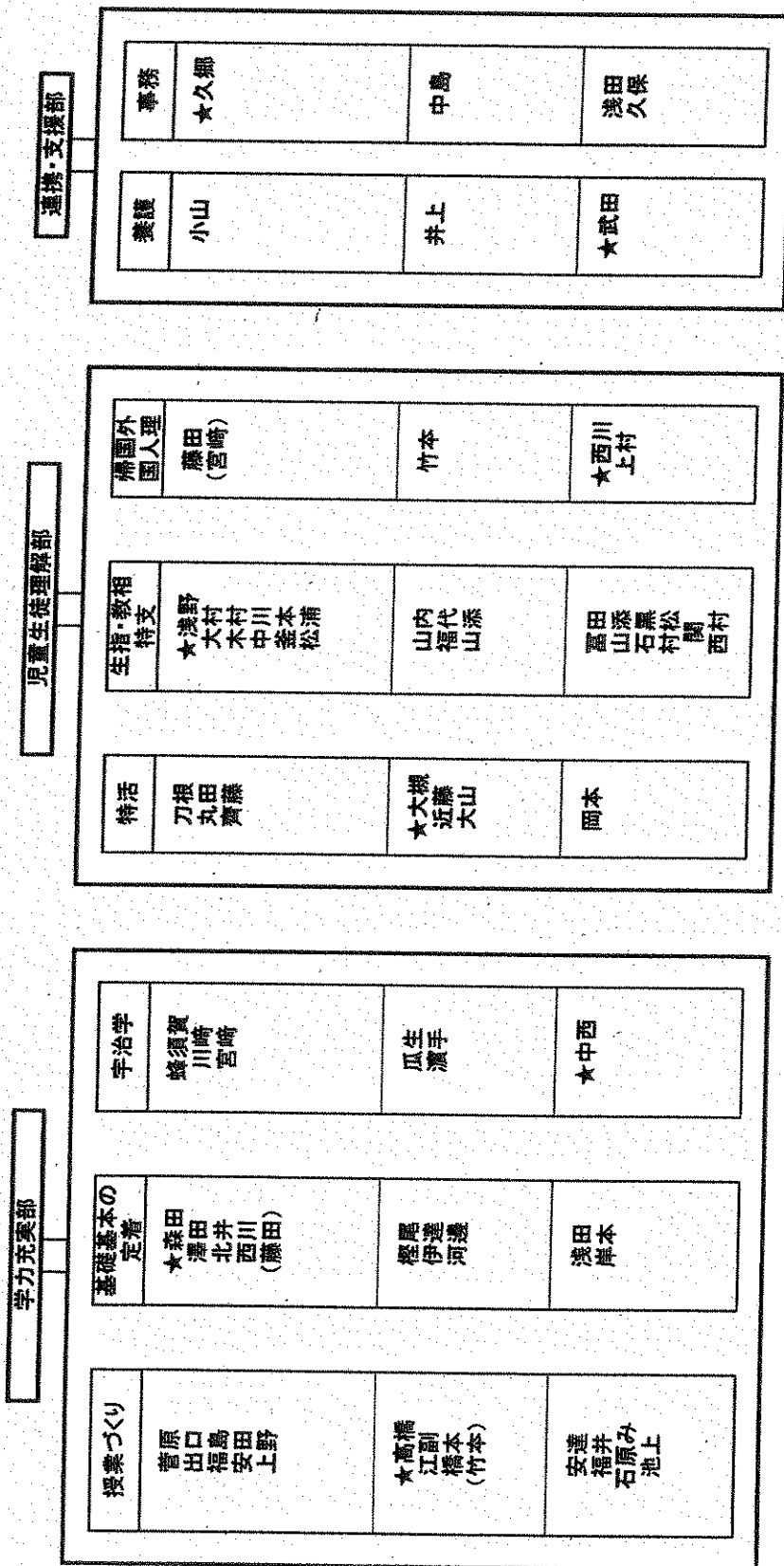
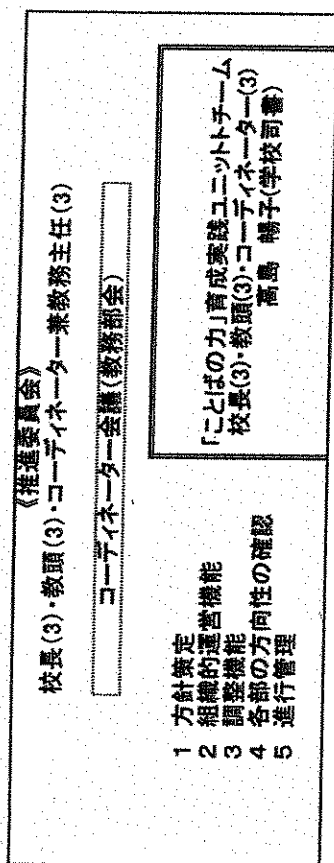
- ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に発行する。
- ・家庭学習の手引きの配布を通して、家庭学習の大切さを知らせ保護者と一体になって家庭学習推進の取組を進める。
- ・地域に学校だよりを配布し、学校の実践を紹介すると共に、地域の課題を共有する。

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

- ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会を計画的に実施する。
- ・ブロック校長会の指導に基づき推進計画を立案し、改善充実させる。
- ・コーディネーター会議及び推進委員会等において教科連携加配教員を効果的に活用しよう検討する。
- ・ラーニングコーディネーターが定期的に学校訪問を行う。

※ 添付 「平成30年度小中一貫教育を推進する組織図」

平成30年度 南宇治中学校区小中一貫教育推進体制組織図



南宇治中学校 西大久保小学校 平盛小学校

ブロック小中一貫教育目標

めざす子ども像 夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成

昨年度の成果と課題

- ・小中合同のあいさつ運動や清掃活動、小小・小中連携の国際理解学習の取組が定例化してきたことによって、小中間だけでなく小小間の連携も深まり、三校の教員の児童生徒理解が進んできた。その結果、学力に対する課題を共有することもできてきている。
- ・小学生への中学校の定期テスト対策や、国際理解教育の基本知識をもって入学してくることが、安定した中学校生活を送ることにつながっている。
- ・学力の向上に向けた具体的な取組をどのように進めていくか、三校で検討していくことが課題である。

今年度の重点

- ・組織・体制を見直し、具体的な学力向上の取組を検討する。
- ・児童生徒の交流が、より実りあるものにするために、主体的な活動にしていく。

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・学力充実部が行う学力分析の結果から、具体的な改善目標を精選し、設定した目標に向けての取組を検討する。
 - ・授業を公開し、事前研・事後研を含む授業研究を行い、小中で取り組める授業改善の方向性を探る。
 - ・授業規律の共有と家庭学習の取組（家庭学習の手引きの作成など）を進める。
 - ・各校の状況を踏まえ、学校生活のきまりや、よりよい姿を小中で共有する。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・両小学校で帰国外国人児童生徒理解学習を実施し、中国武術体験などを通して三校共通のグローバルな感覚を養う。
 - ・児童会生徒会合同会議を実施し、小中合同地域清掃ボランティア活動や、児童会生徒会合同あいさつ運動を児童生徒の主体的な取組にする。
 - ・小学6年生の授業体験・部活動体験や、中学生による小学生の部活指導支援を通して児童生徒の交流を図る。
- (3) 家庭・地域社会との連携
 - ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に発行する。
 - ・家庭学習の手引きの配布を通して、家庭学習の大切さを知らせ保護者と一体になって家庭学習推進の取組を進める。
 - ・地域に学校だよりを配布し、学校の実践を紹介すると共に、地域の課題を共有する。
- (4) 中学校ブロック推進体制の充実
 - ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会を計画的に実施する。
 - ・ブロック校長会の指導に基づき推進計画を立案し、改善充実させる。
 - ・コーディネーター会議及び推進委員会等において教科連携加配教員を効果的に活用すよう検討する。
 - ・ラーニングコーディネーターが定期的に学校訪問を行う。

※「今年度の取組」については、学力の充実・向上の取組がわかるように記入すること。

平成30年度 広野中学校ブロック ジョイントプラン
— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立 広野中学校 校長 永田 博嗣
宇治市立 大久保小学校 校長 萩野 修司
宇治市立 大開小学校 校長 村上 善輝

小中一貫教育コーディネーター
広野中学校 氏名 小林 哲也
大久保小学校 氏名 (う) 葛山 雅
大開小学校 氏名 塚原 尚子

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

<教育目標>

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

<9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）>

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力
健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めていく力

2 昨年度の成果と課題

<成果>

- ・児童会、生徒会を中心に多彩な取組を進めることができた。
- ・小中一貫教育を支える小小連携に力を入れ取組を進めることができた。
- ・学園の学力課題を焦点化した共通問題を作成し、授業の中で活用することができた。
- ・広野中学校生徒や教員と小学生が具体的な中学校の生活や学習の仕方について話し、感じたことを小学校生活に生かす活動を通して、中学校に向けての不安を軽減することができた。
- ・3校合同での地域懇談会や学校評議員会議を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・3校の行事予定表やHOOP（宇治ひろの学園小中一貫だより）を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。

<課題>

- ・各校の教職員の交流や共同研究を充実させ、教職員の意識や日常的な取組を定着させる。
- ・小小連携を更に充実させて有効活用し、無理なく効果的な小中一貫教育の取組を進めていく。
- ・学園全体の学力向上を目指し、さらに学力充実に焦点化した取組をさらに推進する。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」をさらに展開していく。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育の重点（中学校ブロックにおける重点取組）

◎これまでの研究の成果・課題を整理して、研究内容・取組の再確認、共通理解を深めることにより、より効果的に取組を進める。（特に学力向上の取組）

○宇治ひろの学園小中一貫教育の円滑な運営及び推進

・年間の計画（5月：総会 8月：合同研修会 3月：各校でまとめ）

・伝え合う力の育成のための教育活動の取組

・2小1中で協力した授業研究（小小の連携、小中の連携）

・児童生徒の交流・小学校教員と中学校教員の交流の充実

・各部会の取組の再確認と共通理解を深めることによる効果的な取組の推進

○学力向上に向けての取組

・宇治ひろの学園 共通問題（算数）の作成・実施

・中学校定期テスト不安軽減の取組（小学校6年生で実施）

○小小連携の充実

○保護者、地域への情報発信と啓発の充実

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・教員の定期的な打合せの時間の確保
- ・各部会の校種をこえた組織的な活動の実施
- ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研への参加・交流)
- ・3校での夏季合同研修の実施
- ・小6の中学校体験学習での小中教員の合同での授業
- ・中学校教員の小学校体験研修及び小学校教員の中学校体験研修
- ・小学校教員の中学校部活動見学
- ・生徒指導交流と連携の充実(年間3回:学期1回)
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組(2学期以降3回程度)

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研への参加・交流)
- ・全国学力学習状況調査や京都府学力診断テスト、及びブロック独自で取り組むCRTテストの結果の分析と課題解決に向けた取組の検討及び実施
- ・宇治ひろの学園共通問題(小6算数)の実施
- ・よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを旨とする「宇治学」の充実
- ・コーディネーター会議(事務局会議)の定期的な実施(月1回以上)
- ・児童生徒理解部会、特別支援教育部会の合同研修の計画及び実施
- ・中学校ブロック独自の生徒指導カルテの作成・引継
- ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)の実施(年3回程度)
- ・福島ひまわりプロジェクトの実施
- ・3校児童生徒会合同での取組の充実(あいさつ運動、プルトップの回収)
- ・中学生が小学校低学年への絵本の読み聞かせ
- ・小学校クラブへのアシスタントティーチャーとしての参加
- ・小6の中学校体験学習での小小交流事業
- ・中学1年生による2小学校1年生への読み聞かせ(紙芝居)

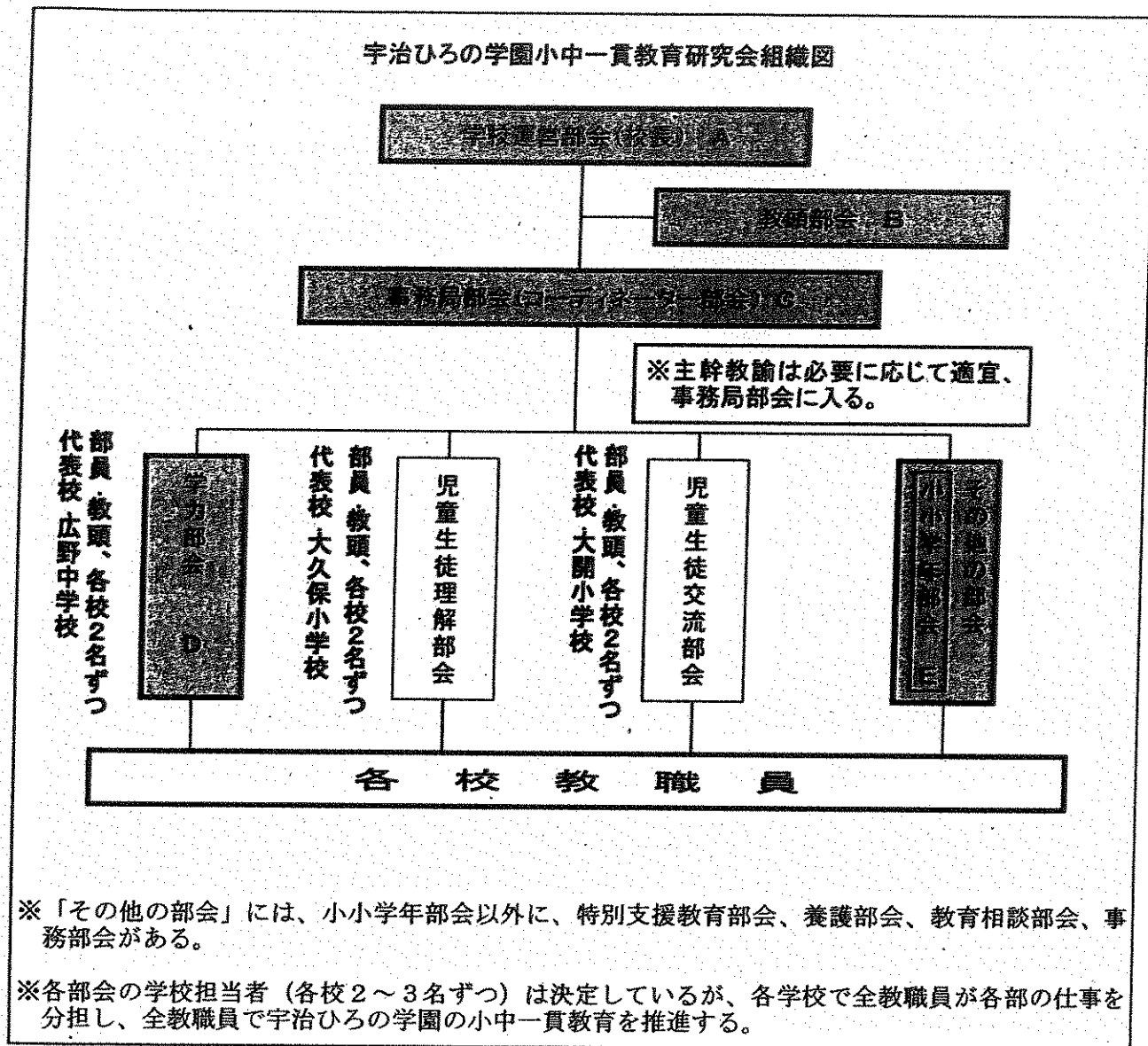
(3) 家庭・地域社会との連携

- ・HOOP(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)の保護者・地域への全戸配付
- ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用
- ・各校での行事を活用した積極的な情報発信
- ・3校合同の地域懇談会や学校評議委員会の計画及び実施
- ・小6の中学校体験学習の保護者参観
- ・大開っ子くらぶ(土曜日の活用事業)での広中生徒の参加

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

- ・ブロック校長会議(学校運営部会)の実施(月1回以上)及び教頭部会の開催
- ・コーディネーター会議(事務局部会)の定期的な実施(月1回以上)
- ・学園児童生徒の学力充実を目指し、各部会の組織的な活動の実施

5 平成30年度小中一貫教育を推進する組織図



ブロック小中一貫教育目標

＜教育目標＞

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

＜9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）＞

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力

昨年度の成果と課題

（成果）

- ・児童会、生徒会を中心に多彩な取組を進めることができた。
- ・小中一貫教育を支える小小連携に力を入れ取組を進めることができた。
- ・学園の学力課題を焦点化した共通問題を作成し、授業の中で活用することができた。
- ・広野中学校生徒や教員と小学生が具体的な中学校の生活や学習の仕方について話し、感じたことを小学校生活に生かす活動を通して、中学校に向けての不安を軽減することができた。
- ・3校合同での地域懇談会や学校評議員会議を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・3校の行事予定表や HOOP（宇治ひろの学園小中一貫だより）を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。

（課題）

- ・各校の教職員の交流や共同研究を充実させ、教職員の意識や日常的な取組を定着させる。
- ・小小連携を更に充実させて有効活用し、無理なく効果的な小中一貫教育の取組を進めていく。
- ・学園全体の学力向上を目指し、さらに学力充実に焦点化した取組をさらに推進する。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」をさらに展開していく。

今年度の重点

- 宇治ひろの学園小中一貫教育の円滑な運営及び推進
- ・各部会の取組の再確認と共通理解を深めることによる効果的な取組の推進（特に学力向上の取組について）
- ・年間の計画（5月：総会 8月：合同研修会 3月：各校でまとめ）
- ・伝え合う力の育成のための取組
- ・2小1中で協力した授業研究（小小の連携、小中の連携）
- ・児童生徒の交流・小学校教員と中学校教員の交流の充実
- 学力向上に向けての取組
- ・宇治ひろの学園共通問題（算数）実施
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組（小学校6年生で実施）
- ・小中一貫連携教員の活用
- ・学力向上に向けた取組の小小連携の強化
- 小小連携の充実
- 保護者、地域への情報発信と啓発の充実

今年度の取組

★児童生徒が交流する取組

- ・児童生徒の主体のHOT-MEETING（3校合同児童生徒会）運営
- ・HOT-STUDY（中学校 新入生半日入学）
- ・クラブアシスタントティーチャー（中学生の小学校クラブへの参加）
- ・中学生による小学生への紙芝居の読み聞かせ
- ・福島ひまわり里親プロジェクトへの参加 他

★学力充実の取組

- ・板書カード・授業システム・家庭学習の手引き
- ・全国学力・学習状況調査、府学力診断テスト、CRTテストの結果分析と課題の共通理解
- ・小学校高学年での「教科担当制」
- ・中1振りスタへの小学校教員の参加
- ・宇治ひろの学園共通問題（算数）の実施 他

★教職員が交流・共同研究する取組

- ・宇治ひろの学園研究会の開催（5月総会、8月夏季合同研修会）
- ・2小学校教員による小小交流の充実
- ・各校授業研究会への参加
- ・小学校教員による中学校の部活動見学
- ・中学校教員による小学校体験研修 他

★保護者・地域と交流する取組

- ・広野中学校吹奏楽部定期演奏会
in大久保小学校
- 「オータムメモリーコンサート」の開催
- ・3校合同地域懇談会の開催
- ・3校合同PTA・育友会懇談会の開催
- ・子どもの主張大会（大久保学区青少協主催）他

平成30年度 東宇治中学校ブロック ジョイントプラン

－ 小中一貫教育推進計画 －

宇治市立東宇治中学校 校長 田中 康
 宇治市立岡屋小学校 校長 谷口 喜一
 宇治市立南部小学校 校長 三上 誠一
 宇治市立三室戸小学校 校長 徳田 雅人

小中一貫教育コーディネーター

(子) 南部小学校 氏名 小谷 実
 東宇治中学校 氏名 清原 晃信
 岡屋小学校 氏名 向井 毅
 三室戸小学校 氏名 田中 健太

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標

「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像

「自ら学び学習する児童・生徒」
 「思いやりのある児童・生徒」
 「たくましく生きる児童・生徒」
 「健康や安全を考える児童・生徒」

2 昨年度の成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえた、授業や指導を通した小中合同の研究・取組を進めることができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議・ブロック教頭会議のリーダーシップのもと、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒を「命を輝かす人間」に成長させるために、学力課題や生活課題を一層明確にし、小中一貫教育の視点で、課題解決に向けた取組を進める必要がある。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- これまでの小中連携・小中一貫教育の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、確かな学力と生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、取組の点検・評価・改善を図る。
- 「ブロック校長会議」の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「推進3部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。
- 授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進める。また、その研究成果を、日常の授業や小中一貫教育の様々な取組に反映させ、児童生徒の「ことばの力」や「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、学力や生きる力の充実・向上を図る。
- 地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事への参画や家庭・地域への情報発信、連携強化を積極的に進める。

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

年間を通して、小中合同研修会(合同研究授業を含む)や推進3部会(児童生徒交流部・児童生徒理解部・児童生徒学力充実部)で、本ブロックの児童生徒の学力・生活課題に迫るテーマや小中の接続の課題について研修や取組を進め、系統的・継続的な指導の充実を図る。特に、授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進め、その研究成果を、日常の授業や小中一貫教育の様々な取組に反映させ、児童生徒の「ことばの力」や「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、学力や生きる力の充実・向上を図る。また、中1ギャップを解消するための取組についても積極的に進める。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

3小1中での児童生徒交流や1小1中での児童生徒交流、小中一貫教育の基盤となる小小連携の取組、地域・PTA(育友会)と連携し地域ぐるみで進める取組など、様々な形態を工夫しながら、小中一貫教育を総合的に推進する。

また、「宇治学」について、副読本の活用を進めながら、本ブロック3小1中での7年間の系統的指導の在り方について検討を進める。

(3) 家庭・地域社会との連携

定期的に小中一貫教育だよりを配布したり、各校の学校便り等で小中一貫教育の取組を広報したり、情報発信を積極的に進める。また、地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事へ積極的に参画する。

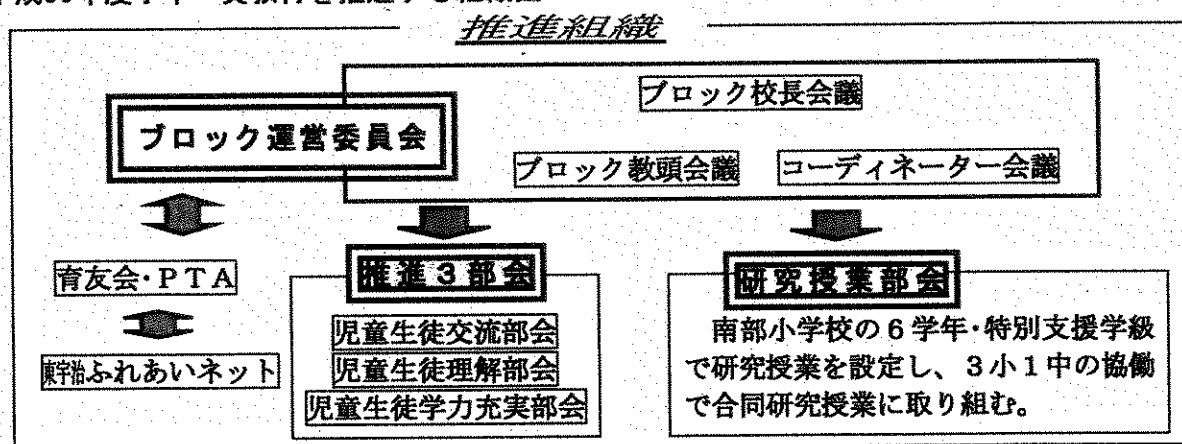
家庭との連携強化の切り口として、ブロック共通の「家庭学習の手引き」(保存版)を配布し、積極的に活用する。

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

ブロック校長会議の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「推進3部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。

その中で、ブロック校長会議やブロック教頭会議とコーディネーター会議との連携を強化し、小中一貫教育を推進する機能的な体制を追求する。

5 平成30年度小中一貫教育を推進する組織図



※役割分担

ブロック校長会議	ブロック小中一貫教育推進の方向性の提示
ブロック教頭会議	ブロック小中一貫教育の推進・調整、地域・PTA育友会との連携
コーディネーター会議	小中一貫教育推進に関わる調整、取組の企画・運営・進行管理
児童生徒交流部会	児童生徒交流事業の推進
児童生徒理解部会	生徒指導、教育相談、特別支援教育に関わる研究及び取組の推進
児童生徒学力充実部会	学力の充実・向上に関わる研究及び取組の推進

小中一貫教育の構想図

教育目標 「命を輝かす人間」

- めざす児童・生徒像** 「自ら学び学習する児童・生徒」 「思いやりのある児童・生徒」
「たくましく生きる児童・生徒」 「健康や安全を考える児童・生徒」

昨年度の成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえ、授業や指導を通した小中合同の研究・取組を進めることができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議・ブロック教頭会議のリーダーシップのもと、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒の学力課題や生活課題を一層明確にし、小中一貫教育の視点で、課題解決に向けた取組を進める必要がある。

今年度の重点

- 小中一貫教育実施6年間の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、将来にわたって生きて働く学力や生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、日々の指導の充実を図りながら、取組の点検・評価・改善を進める。
- 「ブロック校長会議」の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「推進3部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。
- 授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進める。また、その研究成果を、日常の授業や小中一貫教育の様々な取組に反映させ、児童生徒の「ことばの力」や「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、学力や生きる力の充実・向上を図る。
- 地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事への参画や家庭・地域への情報発信、連携強化を積極的に進める。

今年度の取組

教職員研修

- 小中合同研修会(5/28・8/23・11/15)
- 小中合同研究授業(11/15 会場:南部小)
- 相互授業参観
 - ・小学校から中学校授業参観(5/28)
 - ・中学校から小学校授業参観(6/1)
- 教職員広報の発行
- 4校学校便りを教職員へ配布
- 3小合同研修会+合同学年会(8/23)
- 中学1年ふりスタへの小学校教員支援
- 東宇治中ブロック児童生徒の学力分析

家庭・地域との連携

- 小中一貫教育便りの発行
- 「家庭学習の手引き」(保存版)の配布
- PTA・育友会 保護者合同研修会(2学期)
- 小中一貫教育コーナー(掲示板)の設置
- 小中一貫教育リーフレットの配布(小学1年・転入生)
- 「おおばくまつり」(東宇治ふれあいネット)

児童・生徒交流

- 小学6年生の中学校体験入学(11/7)
- 中学2年生の小学校での職場体験(5/24・25)
- 児童会・生徒会協同の取組
- 中学生の美術作品巡回展示(2学期)
- 花植ボランティアによるプランター贈呈
- 地域行事での交流

小中スムーズな接続のために

- スクールライフサポートブック配布(小学6年)
- 先スタ(中学入塾前)の配布(小学6年)
- 小学6年生の中学校体験入学(11/7)
- 小中連携教員による外国語活動指導(小学6年)
- 東宇治中入学保護者説明会(11/30)
- 小中連絡会(5/14・12月・2月)
- 中学学校便りを小学6年生に配布
- 授業スタンダードの積極的活用
- 定期テスト対策(小学6年)
- 「宇治学」カリキュラムの検討

学力の充実・向上

- 児童生徒に「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、「ことばの力」や生きて働く学力、生きる力を身に付けるために
- 授業充実のための相互授業参観・合同研究授業・授業スタンダードの活用
- 中1京都府学力診断テストを中心とした学力分析を小・中学校の授業改善に活用
- ふりスタ・先スタ・定期テスト対策(小6)による小中の接続強化
- 家庭学習の手引き・スクールライフサポートブックによる家庭学習習慣・生活習慣の確立

平成30年度 木幡中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立木幡中学校	校長 森 義明
宇治市立御蔵山小学校	校長 川井 利彦
宇治市立木幡小学校	校長 福地 裕之
宇治市立笠取小学校	校長 角田 泰志
宇治市立笠取第二小学校	校長 井上 浩

小中一貫教育コーディネーター

木幡 中学校 (チ)	氏名 渥美 善之
木幡 中学校	氏名 長谷川 良
御蔵山 小学校	氏名 大空 幸恵
木幡 小学校	氏名 西村 浩
笠取 小学校	氏名 赤野 良英
笠取第二小学校	氏名 寺岸 真司

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

木幡中ブロック教育目標

「故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童生徒」

2 昨年度の成果と課題

(成果)

- ・小中一貫教育の各取組は、予定通り実施できた。
- ・研究授業の方向性を全教科で統一して実施した。どの教科もグループ活動を取り入れた研究授業がなされ、工夫や特色ある授業が展開された。
- ・教科領域部会（8部会）と教科外連絡会（6部会）に分け、教科と領域の重複課題をなくした。
- ・全教職員が一堂に会し、各部会、連絡会で具体的な話し合いと研究を行うことができた。
- ・情報発信は、各学校の学校だよりを掲示し、情報交流することができた。
- ・話し合い活動を取り入れた授業を各学校で取り入れることができた。
- ・教科外連絡会で各校の情報を共有することができた。

(課題)

- ・取り入れることはできたが、4人組をする目的の交流などのそもそもなぜする必要があるのか考えることができなかった。だから子ども同士が意見を出し合う理由などをもっと教師が認識する必要がある。
- ・T₁とT₂との打合せについて難しい教科もあった。また、T・Tでの授業形態そのものも、その後、小中に持ち帰っての活用に繋がっているとは限らない現状がある。
- ・研修会における、研究授業の取組方法を検討する必要がある。
- ・中学校の定期テストに対する不安を軽減するための取組を検討しなければならない。
- ・各研修会での取組内容をブロックの教師で共有することができなかった。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- ・4つの教科外連絡会で、小中の系統的、継続的な指導を進める。
- ・小中一貫だよりとHPを活用し、児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動を進める。
- ・アクティブラーニングの研修を行い、ブロック内の授業改善を行い、学力向上のために主体的対話的な深い学びが実現できる授業を木幡中ブロック全体で行う。
- ・中学校での学習面の不安を軽減するために、児童向けの中学校進学講座を行う。
- ・各研修会の報告をブロックの教師で共有できるように一貫だよりを作成する。

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
- ・中学入学時の不安軽減へ向けての取組を行う。特に学習面の不安軽減のための準備講座を実施する。
 - ・「みそあじ」を意識し、小中一貫の系統的な生徒指導を行う。
 - ・中学校英語教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
 - ・へき地校を含んだ小小連携授業・交流学习を実施する。
 - ・合同研修会を通して小中教員が連携し、木幡中ブロックの学力向上につながる主体的対話的で深い学びのある研究授業を行う。
 - ・第1回合同研修会で、小学校の教師が中学校の授業参観を行い、進学後のことを考えた指導を心がける。
 - ・第3回合同研修会で、小学校の様子を中学校の教師が知ることで継続的な学習指導と生徒指導を意識させる。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
- ①中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施
- ・部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向を探る。
- ②中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実
- ・全教職員が、教科領域部会または教科外部会に所属する。
 - ・各校の学校行事の計画段階で小中一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
 - ・研究の具体的な方向性を掲げる。
どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にしたい授業にしていく。
 - ・研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
 - ・年間3回の小中教員の合同研修会（6月13日、8月22日、11月14日）を行う。
その中で各部長を中心とした教科領域部会を持ち、授業改善に努める。
 - ・8月22日の研修会では、全体会で講師を招き、主体的対話的で深い学びのある授業を研修し、小中での教育活動の連携を図る。
- ③中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実
- ア 小学6年生の中学校への半日体験入学
11月7日（水） 歓迎行事の取り組み、部活動の体験
- イ 中学生の部活動単位での交流
・吹奏楽部による小学校での発表会 ・美術部による小学校作品展への展示発表
- ウ 児童会、生徒会の交流
・小学校児童会本部役員会と中学校生徒会本部役員会が共に交流する機会を設定する。
- エ 三校交流による小小連携の取り組み
6月 日（ ） 木幡小、笠取小、笠取第二小
11月 日（ ） 御蔵山小、笠取小、笠取第二小
- (3) 家庭・地域社会との連携
- ・ふれあいフェスタ、おもろいやんか木幡への参加。
 - ・「小中一貫教育通信」（保護者、児童生徒向け）を定期発行する。
 - ・中学校の「生活だより」（毎月発行）を全6年生（笠取小・笠取二小は5・6年生）に配布する。
 - ・ホームページ等の活用。
 - ・11月 日（ ） 新入生保護者説明会。
- (4) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
- ブロック校長会、小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。
8教科領域部会および4教科外連絡会の定例化を図り特色のある取組を推進する。
各学校のコーディネーターと連携をとり、各校の状況を共有する。

ブロック小中一貫

めざす子ども像 故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒

昨年度の成果と課題

(成果)

- ・小中一貫教育の各取組は、予定通り実施できた。
- ・研究授業の方向性を全教科で統一して実施した。どの教科もグループ活動を取り入れた研究授業がなされ、工夫や特色ある授業が展開された。
- ・教科領域部会（8 部会）と教科外連絡会（6 部会）に分け、教科と領域の重複課題をなくした。
- ・全教職員が一堂に会し、各部会、連絡会で具体的な話し合いと研究を行うことができた。
- ・情報発信は、各学校の学校だよりを掲示し、情報交流することができた。
- ・話し合い活動を取り入れた授業を各学校で取り入れることができた。
- ・教科外連絡会で各校の情報を共有することができた。

(課題)

- ・取り入れることはできたが、4 人組をする目的の交流などのそもそもなぜする必要があるのか 考えることができなかった。だから子ども同士が意見を出し合う理由などをもっと教師が認識 する必要がある。
- ・T₁とT₂との打合せについて難しい教科もあった。また、T・Tでの授業形態そのものも、その後、小中に持ち帰っての活用に繋がっているとは限らない現状がある。
- ・研修会における、研究授業の取組方法を検討する必要がある。
- ・中学校の定期テストに対する不安を軽減するための取組を検討しなければならない。
- ・各研修会での取組内容をブロックの教師が共有することができなかった。

今年度の重点

- ・4つの教科外連絡会で、小中の系統的、継続的な指導を進める。
- ・小中一貫だよりと HP を活用し、児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動を進める。
- ・アクティブラーニングの研修を行い、ブロック内の授業改善を行い、学力向上のために主体的対話的な深い学びが実現できる授業を木幡中ブロック全体で行う。
- ・中学校での学習面の不安を軽減するために、児童向けの中学校進学講座を行う。
- ・各研修会の報告をブロックの教師で共有できるように一貫だよりを作成する。

今年度の取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・中学入学時の不安軽減へ向けての取組を行う。特に学習面の不安軽減のための準備講座を実施する。
- ・「みそあじ」を意識し、小中一貫の系統的な生徒指導を行う。
- ・中学校英語教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
- ・へき地校を含んだ小小連携授業・交流学习を実施する。
- ・合同研修会を通して小中教員が連携し、木幡中ブロックの学力向上につながる主体的対話的で深い学びのある研究授業を行う。
- ・第 1 回合同研修会で、小学校の教師が中学校の授業参観を行い、進学後のことを考えた指導を心がける。
- ・第 3 回合同研修会で、小学校の様子を中学校の教師が知ることで継続的な学習指導と生徒指導を意識させる。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施

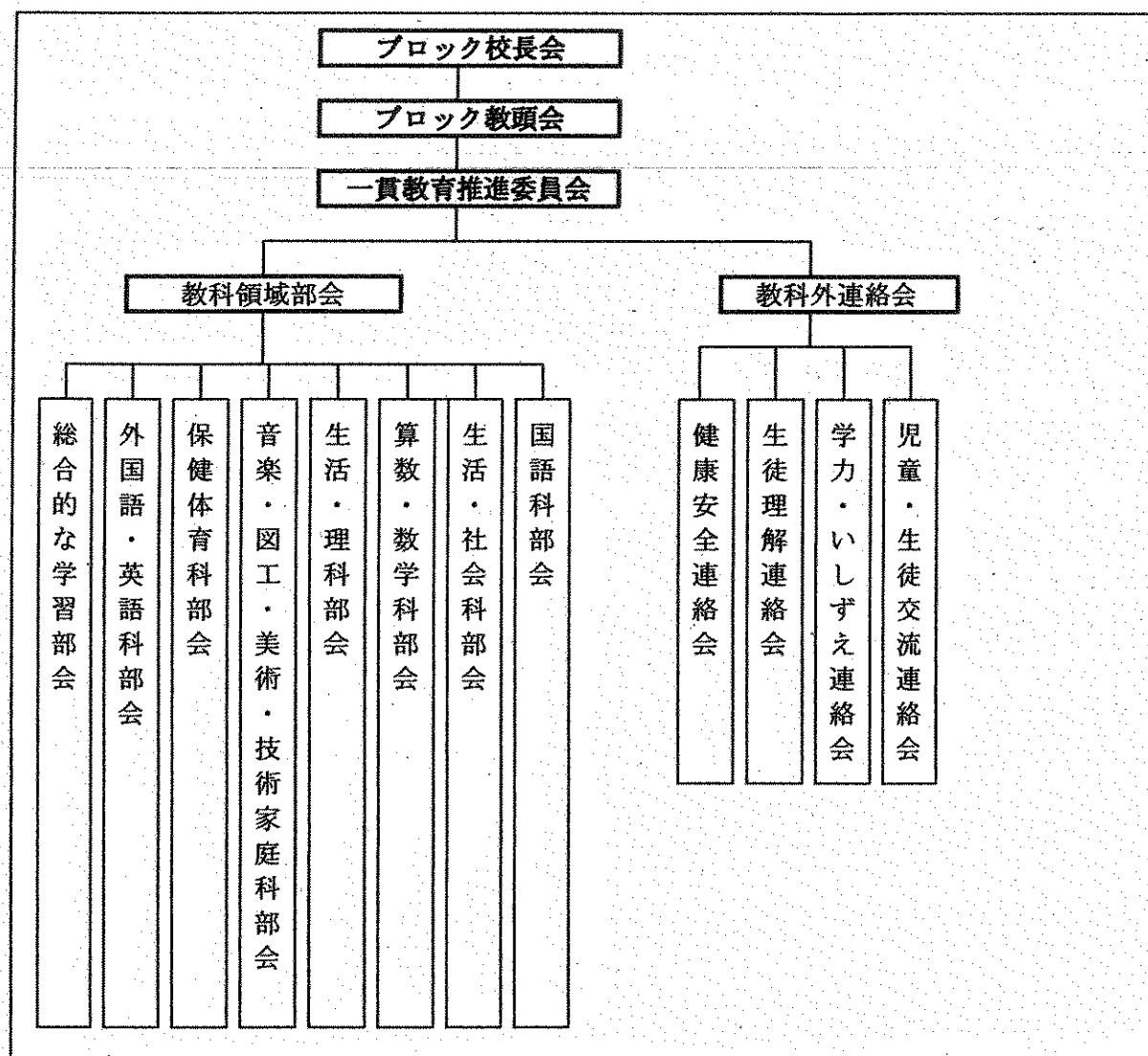
- ・部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向を探る。

② 中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実

- ・全教職員が、教科領域部会または教科外部会に所属する。
- ・各校の学校行事の計画段階で小中一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
- ・研究の具体的な方向性を掲げる。

どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にした授業にしていく。

平成30年度小中一貫教育を推進する組織図



- ・研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
- ・年間3回の小中教員の合同研修会（6月13日、8月22日、11月14日）を行う。
その中で各部長を中心とした教科領域部会を持ち、授業改善に努める。
- ・8月22日の研修会では、全体会で講師を招き、主体的対話的で深い学びのある授業を研修し、小中での教育活動の連携を図る。

③中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実

ア 小学6年生の中学校への半日体験入学

11月7日（水） 歓迎行事の取り組み、部活動の体験

イ 中学生の部活動単位での交流

・吹奏楽部による小学校での発表会 ・美術部による小学校作品展への展示発表

ウ 児童会、生徒会の交流

・小学校児童会本部役員会と中学校生徒会本部役員会が共に交流する機会を設定する。

エ 三校交流による小小連携の取り組み

6月20日（水） 木幡小、笠取小、笠取第二小

11月 日（ ） 御蔵山小、笠取小、笠取第二小

(3) 家庭・地域社会との連携

- ・ふれあいフェスタ、おもろいやんか木幡への参加。
- ・「小中一貫教育通信」（保護者、児童生徒向け）を定期発行する。
- ・中学校の「生活だより」（毎月発行）を全6年生（笠取小・笠取二小は5・6年生）に配布する。
- ・ホームページ等の活用。
- ・11月14日（水）新入生保護者説明会。

(4) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

ブロック校長会、小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。

8教科領域部会および4教科外連絡会の定例化を図り特色のある取組を推進する。

各学校のコーディネーターと連携をとり、各校の状況を共有する。

小中一貫教育コーディネーター [氏名の前にラーニングには(ラ)、チーフには(チ)を付ける]

(黄檗) 中学校 氏名 酒井 康輔

(宇治) 小学校 氏名 (ラ) 坂上 敬宣

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

(1) 校訓

「たかく」 高い志を持って、学びの道を究める人

「すずしく」 さわやかな心、優しい心を持った人

「たくましく」 強い意志を持って、人生を切り拓く人

(2) 教育目標

高い志を持ち、他者と協調しながら、たくましく生き抜く人間を育成する。

(3) めざす児童生徒像

高い志を持って、学びの道を究める人 (質の高い学力)

さわやかな心、優しい心を持った人 (豊かな人間性・社会性)

強い意志を持って、人生を切り拓く人 (意欲や情熱、健康な体)

2 昨年度の成果と課題

(1) 児童生徒の発達段階に配慮した3ステージでの指導方法の工夫や、学校行事での児童生徒相互の乗り入れの取組による交流など、9年間を見通した取組を実施し、「中1ギャップ」の解消に役立てることができた。

(2) 今年度は、本学園の研究主題である「多様な考えを持つ相手を理解し、自分の考えを正確に伝える児童生徒の育成」を重点取組とし、学力向上にむけてさらに取組内容を具体化、系統化し、学校全体で進める必要がある。

3 平成30年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

9年間を生かした自己実現力の育成

～意欲的・主体的な学び合いによる質の高い学力の育成～

『全ての教育活動において「主体的・対話的で深い学び」を追究する』

4 平成30年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

① 学習指導

ア 発達段階に応じた指導法の開発を行う。

イ 全ての教科を通じて「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指し授業づくりを行っていく。

ウ 学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出したり、中学校の課題に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力分析を比較し改善策を検討する。

エ 中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。

オ 定期テストの不安軽減への取組などを小学校段階で実施し、中1ギャップの解消につ

なげる。

② 生徒指導

ア 9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情の醸成を図る。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 新学習指導要領の趣旨を踏まえて、小学校では1,2年生（年間18時間）3,4年生（年間35時間）で外国語活動、5,6年生（年間70時間）の外国語科を実施する。中学校では、授業を英語で行う、英語による言語活動を充実させるなど、引き続き授業改善を行う。

② 共に学び、共に活動できる児童生徒の育成を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。

(3) 家庭・地域社会との連携

- ① 育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加
- ② 学園会による地域の方々へのアンケートの実施
- ③ 地域懇談会への教職員の参加
- ④ 親のための進路セミナーの開催

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

- ① 小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で、適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実にし、随時、計画や取組についての点検を行う。
- ② 企画委員会、前期主任会、中後期主任会等の会議を通して、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。小中一貫コーディネータは前期・中後期主任会の両方に出席し、それぞれの会議内容を伝達し、情報の共有化を図る。

※ 添付 「平成30年度小中一貫教育を推進する組織図」

平成30年度 諸会議・委員会、主幹・主事・主任・委員、部活動担当

宇治黄葉学園(宇治小学校・黄葉中学校)
平成30年4月10日(火)

諸会議・委員会	小学校								中学校				
	学年外	わかくさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年	学年外	きはだ	7年	8年	9年
職員会議	全教職員												
企画委員会	校長 教頭 主幹 教務	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任	副校長 教頭 教務 生指	主任	主任	主任	主任
前期主任会	教頭 主幹 教務 養教		主任	主任	主任	主任							
中後期主任会	主幹 養教 教務						主任	主任	副校長 教頭 教務 生指 養教		主任	主任	主任
特別支援教育校内委員会 (校内就学指導委員会を兼ねる)	教頭 特支コーディネーター 主幹 生指主任 教相部長 通級 特支部長 特支担任 養教												
学校保健会	教頭 保健主事 養教 栄養 育友会 校医												
給食運営委員会	教頭 主幹 教務 栄養 養護 育友会												
いじめ対策委員会	管理職 教務 生指主任 教相部長 特支コーディネーター 学年主任 学年生指 担任 スクールカウンセラー												
安全衛生委員会	教頭 教職員各世代代表(. . .)												
学園体育大会実行委員会									酒井 山崎		福西 西野	山根	井ノ本 村上
学園文化祭実行委員会									酒井 山崎	一針	福西 坂井	山根	井ノ本

主幹・主事・主任・委員

生徒指導主事・主任	澤山 山崎	学力向上推進担当	森川 福西	市小・中体連理事	乾 西野
保健主事	坂上 山崎	少人数推進担当教師	堀 高橋 堤 朝倉	市小教研・中教研学校代表	坂上 酒井
進路指導主事	由利	道徳教育推進教師	松居香 酒井	市人権教育研究委員	渋谷 坂井
学校安全管理主任	澤山 山崎	特別支援コーディネーター	横江 山上 高見 黒木 一針 赤野 西村睦	互助組合学校代表	教頭 事務
小中一貫コーディネーター	坂上 酒井	市特支研究会学校代表	黒木 西村	学体連理事	きはだ会担当
司書教諭	賀数 三上	市就学指導委員	横江 中井 赤野 一針		

小教研・中教研 学校代表

小学校							
教科				領域			
国語	俣野	森川		道徳	徳永	松居	
社会	黒木			特別活動	河田		
算数	安達			生徒指導	渋谷	澤山	
理科	堀			図書館教育	間宮	賀数	
生活	野澤	山本	山上	健康安全	戸田	高橋	
音楽	上辻	中井	西川	情報教育	小西	坂上	
図画工作	植村	藤本	高橋	総合的な学習	中嶋	辰巳	
家庭	安井						
体育	松田	乾					
外国語活動	西田	三田					

中学校			
教科	領域		
国語	福西	学校代表	酒井
社会	田立	道徳	宮脇
数学	堤	特別活動	山根
理科	井ノ本	生徒指導	山崎
音楽	一針	進路指導	由利
美術	野瀬	図書館教育	三上
保体男子	西野	健康教育	柏木
保体女子	村上	安全教育	永島
技術		情報教育	西村直
家庭		総合的な学習	由利
英語	朝倉	中学生の主張	福西

部活動指導担当

	顧問			支援		
野球	酒井	西野				
バレーボール 男子	西村直	山根				
バレーボール 女子	朝倉	野瀬				
ソフトテニス 男子	宮脇	由利				
ソフトテニス 女子	三上	村上				
卓球	赤野	堤				
サッカー	小西	道岸				
陸上競技	井ノ本	坂井	山崎			
バドミントン	田立	西村				
吹奏楽	一針	福西	西川			
科学・美術	永島	森谷				

ブロック小中一貫教育目標

- めざす子ども像**
- ・ 高い志を持って、学びの道を究める人（質の高い学力）
 - ・ さわやかな心、優しい心を持った人（豊かな人間性・社会性）
 - ・ 強い意志を持って、人生を切り拓く人（意欲や情熱、健康な体）

昨年度の成果と課題

発達段階に配慮した指導方法の工夫や、児童生徒相互の交流など、9年間を見通した取組を実施し「中1ギャップ」の解消に役立てることができた。
学力向上にむけてさらに取組内容を具体化、系統化し、学校全体で進める必要がある。

今年度の重点

9年間を生かした自己実現力の育成
～意欲的・主体的な学び合いによる質の高い学力の育成～
『全ての教育活動において「主体的・対話的で深い学び」を追究する』

今年度の取組**(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実****① 学習指導**

- ア 発達段階に応じた指導法の開発を行う。
- イ 全ての教科を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指し授業づくりを行っていく。
- ウ 学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出したり、中学校の課題に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力分析を比較し改善策を検討する。
- エ 中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。
- オ 定期テストの不安軽減への取組などを小学校段階で実施し、中1ギャップの解消につなげる。

② 生徒指導

- ア 9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情の醸成を図る。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ① 新学習指導要領の趣旨を踏まえて、小学校では1,2年生（年間18時間）3,4年生（年間35時間）で外国語活動、5,6年生（年間70時間）の外国語科を実施する。中学校では、授業を英語で行う、英語による言語活動を充実させるなど、引き続き授業改善を行う。
- ② 共に学び、共に活動できる児童生徒の育成を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。

(3) 家庭・地域社会との連携

- ① 育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加
- ② 学園会による地域の方々へのアンケートの実施
- ③ 地域懇談会への教職員の参加
- ④ 親のための進路セミナーの開催

(4) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

- ① 小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実にし、随時、計画や取組についての点検を行う。
- ② 企画委員会、前期主任会、中後期主任会等の会議を通して、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。小中一貫コーディネータは前期・中後期主任会の両方に出席し、それぞれの会議内容を伝達し、情報の共有化を図る。

平成30年度 ブロック行事および学校行事

平成30年度 2学期に予定されているブロック行事

ブロック名/学校名	
宇治中ブロック 菟道小、菟道第二小、 宇治中	8/21(火) 合同研修会 10/24(水) 小中合同研修会 12/8(土) ふるさと宇治21
北宇治中ブロック 小倉小、北小倉小、 北宇治中	8/21(火) 合同研修会 10/17(水) 合同授業研究会並びに授業参観(北小倉小) 11/7(水) 小学校6年生体験入学
槇島中ブロック 槇島小、北槇島小、 槇島中	8/20(月) 合同研修会 11/7(水) 小学校6年生体験入学 11/26(月) 槇島中学校ブロック部会 12/11・12 あいさつ運動
西小倉中ブロック 西小倉小、南小倉小、 西小倉中	8/22(水) 合同研修会 11/22(木) 合同授業研究会 11/30(金) 小学6年生半日体験入学
西宇治中ブロック 神明小、伊勢田小、 西宇治中	8/21(火) 合同研修会 10/24(水) 合同研修会(伊勢田小) 12/4(火) あいさつ運動(神明小・伊勢田小)
南宇治中ブロック 西大久保小、平盛小、 南宇治中	8/22(水) 合同研修会 10/17(水) 6年生帰国外国人児童生徒理解学習 11/6(火) 小学生の授業体験・部活動体験 12/5(水) 中学生と両小学生が地域の清掃活動を行う
広野中ブロック 大久保小、大開小、広野中	8/21(火) 合同研修会 9/23(日) 広野中学校吹奏楽部定期演奏会(大久保小) 10/19(金) クラブアシスタントティーチャー 10/23(火) 第2回HOT-MEETING 11/16(金) 新入生体験入学 12/7(金) 中学1年生による小学1年生への紙芝居の読み聞かせ 12/7(金) 広野中+大久保小駅前ユニセフ募金活動
東宇治中ブロック 三室戸小、南部小、岡屋小、 東宇治中	8/3(金) 合同研修会 11/7(水) 小学校6年半日体験入学 11/15(木) 小中合同授業研究会(南部小)
木幡中ブロック 木幡小、御蔵山小、笠取小、 笠取第二小、木幡中	8/21(火) 合同研修会 11/7(水) 新入生半日入学 11/14(水) 合同研修会
黄檗中ブロック 宇治小、黄檗中	8/17(金) 合同研修会 10/27(土) 子どもフェスティバル 11/15(木) 学園会選挙

平成30年度 2学期に予定されている学校行事

学 校 名	行 事 内 容
菟道小学校	9/29運動会、11/3学習発表会
菟道第二小学校	9/29運動会、10/27土曜参観・全校ボランティア活動、 全校遠足（太陽が丘）
神明小学校	9/29運動会、11/3休日参観
横島小学校	9/29運動会、10/27土曜参観、12/6マラソン大会
北横島小学校	9/22運動会、11/3オープンスクール
小倉小学校	9/29運動会、11/2小倉小祭り
伊勢田小学校	8/28～30作品展、8/31選書会、9/29運動会、11/3祝日参観、 12/17マラソン大会
西小倉小学校	9/29運動会、11/3休日参観・50周年式典
北小倉小学校	9/19・10/24全校集会、10/26・30授業参観、 11/26ジュニアフェスタ、11/28全校道徳、12/4マラソン大会、 12/7たてわり遊び
南小倉小学校	9/29運動会、11/3土曜参観、
大久保小学校	9/29運動会、11/81・4年学習発表会・6年授業参観、 11/12特支2・3・5年授業参観
大開小学校	9/29運動会、11/3土曜参観、 11/30ふれあいマラソン（太陽が丘）
西大久保小学校	9/29運動会、10/29～31文化芸術による子供の育成事業、 11/3文化発表会
平盛小学校	9/29運動会
宇治小学校	9/14学園祭舞台発表中学校の部へ5・6年参加、10/13体育大会、 10/27子どもフェスティバル、11/15学園会選挙
三室戸小学校	9/29運動会、10/28授業参観、11/29マラソン大会
南部小学校	8/30選書会、9/4授業参観・教育講演会、9/29運動会、 10/26・27校内発表会
岡屋小学校	9/29運動会、10/27学習発表会、11/16授業参観
木幡小学校	10/6運動会、10/27土曜参観・学習発表会
御蔵山小学校	9/4児童集会、9/29運動会、10/27土曜参観、 11/21大縄大会（3校交流）、11/26授業参観
笠取小学校	9/16体育大会、10/2公開授業、10/8祭り太鼓、 10/12全国へき地研究大会、10/27ふるさと文化の集い
笠取第二小学校	9/30運動会、11/4学習発表会
宇治中学校	9/8学校祭体育の部、10/11学校祭文化の部、11/10学校祭展示の部
北宇治中学校	9/8体育大会、10/3合唱コンクール、11/10参観日、 12/7校内授業研
横島中学校	9/2体育大会、9/14避難所体験学習、10/2文化祭、11/10土曜参観
西小倉中学校	9/8体育大会、9/28文化祭、11/10土曜参観
西宇治中学校	10/4文化祭（文化センター）、 11/10オープンスクール・文化祭展示の部
南宇治中学校	9/8体育大会、9/27文化祭・合唱コンクール、 11/10グローバルフェスタ、12/7お弁当の日
広野中学校	9/21文化発表会、9/27授業参観、11/10土曜参観、 11/14生徒会選挙、12/7 1年生紙芝居読み聞かせ
東宇治中学校	9/8体育大会、9/20文化祭展示、11/10土曜参観
木幡中学校	9/8体育大会。9/27文化祭展示、9/28文化祭ステージ、 10/26立会演説
黄檗中学校	9/14学園文化祭舞台の部、10/13学園体育大会、 10/27子どもフェスティバル、11/15学園選挙